

原著論文

アメリカの研究大学における大学院生のための図書館サービスの現状：
ウェブサイト調査をもとに

Library Services for Graduate Students of Research Universities in the United States of America: Based on Service Lists in the Library Websites

佐藤 歩
Ayumi SATO

Résumé

Purpose: With the problems of graduate education in the United States since the 1990s, research university libraries have indicated issues with the services provided to graduate students. This study explores library services that are offered for graduate students at research universities.

Methods: Among 99 US research university libraries that were members of the Association of Research Libraries (ARL), 69 had pages that summarized services for graduate students on their websites. This study extracted and analyzed information about the structures and contents of services for graduate students from the websites of these 69 libraries.

Results: This study found that services for graduate students were classified into four categories (“provision of library resources” as fundamental library services, “support for research activities” to assist researchers, “support for teaching” to aid instructors, and “provision of other information” to respond to graduate student diversity) ranging to the various activity areas of graduate students. Services were offered by libraries, other campus departments, and outside institutions. Pages on the websites had useful information and responded to the specific and various needs of graduate students through cooperation with other libraries. The results of this study indicate that research university libraries tend to constructively provide services for graduate students by addressing the challenges of graduate education.

佐藤 歩：成蹊大学図書館，東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

Ayumi SATO: Seikei University Library, 3-3-1 Kichijojikitamachi, Musashino-shi, Tokyo, JAPAN

e-mail: ayumi-s@keio.jp

受付日：2016年12月20日 改訂稿受付日：2017年5月8日 受理日：2017年9月24日

アメリカの研究大学における大学院生のための図書館サービスの現状：ウェブサイト調査をもとに

- I. 大学院教育の課題と図書館サービス
 - A. 1990年代以降の大学院教育の課題
 - B. 本研究の目的
- II. 大学院生に対する図書館サービスのあゆみ
 - A. 1960年代から2000年代の動向
 - B. Association of Research Librariesによる報告
 - C. 現状調査の意義
- III. ウェブサイトによる現状調査の概要
 - A. 調査目的
 - B. 調査対象
 - C. 調査方法
- IV. ウェブサイトにおけるサービスの構成
 - A. 階層構造
 - B. 見出しの表示
- V. 大学院生のための図書館サービスの詳細
 - A. 図書館資源の提供
 - B. 研究活動の支援
 - C. 教えることに対する支援
 - D. その他の情報の提供
- VI. 大学院教育における図書館の役割
 - A. 調査結果のまとめ
 - B. Association of Research Librariesの報告との照合
 - C. 今後の課題

I. 大学院教育の課題と図書館サービス

A. 1990年代以降の大学院教育の課題

1. 大学院教育における4つの課題

アメリカの大学院教育は、大学のドイツ・モデルにならって研究重視型の大学が創設された19世紀後半にはじまった。第二次世界大戦後、その規模が急速に拡大し、社会的な威信を高め、世界のモデルとなった¹⁾。アメリカの大学院教育の特徴は、基礎学問分野の研究に主眼を置いた学術大学院 (graduate school) と、専門職業教育を行う実学志向の専門職大学院 (professional school) を有していることである。学術大学院では、高度な研究を推進し、大学教員や研究者の育成といった博士課程の大学院教育が行われているのに対し、専門職大学院では、医学、歯学、法律、ビジネスといった専門職を育成する教育機関として、医

師、法律家、企業の経営者等の実務家を養成するための大学院教育が行われている¹⁾²⁾。

その大学院教育において1990年代以降、いくつかの課題が指摘されるようになった³⁾⁴⁾。1つ目は、高等教育における国際的な情勢の変化にともなう留学生の減少である。アメリカの学術におけるリーダーシップは、大学院プログラムによって保証されており、外国人留学生を大学院プログラムに惹きつけることは、大学院教育の質を保証する1つの要素とされてきた。しかし、ヨーロッパや中国、インドの教育の質が向上したことにより、アメリカの大学院に留学する学生が減少し、外国人学生の確保が難しくなった。アメリカが大学院教育においてリーダーシップを持続するためにも、国内外の優秀な学生を大学院教育に惹きつける継続的な努力が重要となった³⁾⁴⁾。

2つ目は、大学院生の多様化による中途退学者

の増加である。新たなキャリアを目指して大学院に進学する人が増加しており、特に修士課程は実学志向の専門分野が多いことから、働きながら学ぶ学生も多い。近年は家庭を持つ学生など、学生の属性も多様化している。しかし、仕事や家庭の両立が難しいといった理由から、学位取得に至らない人も多い³⁾。大学院プログラムを中途退学した理由として、結婚等による家庭での立場の変化、職場でのトラブル、プログラムへの不満、職務の多忙、などがあげられている⁵⁾。

3つ目は、1990年代に入り、企業や大学で博士号(Ph.D.)取得者の採用が減少し、就職難が生じたことである。背景に、州政府の公的資金の削減や東西冷戦の終結による軍事費の削減、大学や企業組織の再編成にともなう人員削減と適正規模の進展などがある¹⁾⁶⁾。高等教育に関わる労働人口は増加しているが、大学の終身在職権のあるポストは少ない。代わりにパートタイム教員を雇用するようになり、フルタイムの終身在職権を得るのは難しい状況となった³⁾。そのため、大学教員以外の職業も選択肢に入れた、将来設計を考えるための支援の必要性が高まってきた⁴⁾。

4つ目は、博士課程教育における学位取得率の低さである。博士課程教育の基本モデルは、コースワークと呼ばれる所定の科目を履修して、必要な単位を取得した後、学位論文を完成させることである⁷⁾⁸⁾。大学院生はコースワークを修了し、資格試験に合格すると博士候補生(Ph.D. candidate)となる。博士候補生は、学位論文の研究計画の口頭試問に合格した後、論文を執筆し、Ph.D. defenseと呼ばれる論文委員の教授らによる最終口頭試問に合格しなければ、博士号を取得することができない⁸⁾。博士号取得までにかかなりの年数を要することが、学位取得に至らず中途退学する理由の1つになっている³⁾。生活面での財政的な支援の有無も、学位取得に与える影響は大きい。結婚し、子供を持つ博士課程学生(Ph.D. student)も増加しており、学生生活を継続していくために、財政的支援の必要性が指摘されている³⁾。大学教員の職を得るには学位取得が求められることから、将来の教員育成のためにも、博士課程学生の学位取

得率の改善は大きな課題といえる。

この4つの課題のうち、1つ目の留学生の減少や2つ目の中途退学者の増加は、専門職大学院にも関わる課題であるが、4つの課題はいずれも学術大学院の課題に関連している。3つ目の博士号取得者の就職難や4つ目の博士課程教育における学位取得率の低さは、博士課程教育に関わる課題であり、学術大学院において博士課程教育の課題の比重が大きいことがわかる。

2. 博士課程教育に関わる6つの問題点

博士課程における教育については、さまざまな調査研究⁹⁾⁻¹⁴⁾によって課題が指摘されている。その中で Maresi Nerad は、大学院教育の中でも博士課程教育に焦点を当て、問題点を、①博士号取得者の視野の狭さ、②組織管理能力やチームワークスキル等の専門的スキルの欠如、③教育活動への準備不足、④学位取得にかかる時間が長く、一部の分野では学位を取得しない学生が多いこと、⑤大学教員以外の雇用機会に関する情報の不足、⑥学位取得後、安定した職を得るまでの時間が長いこと、の6つにまとめている⁹⁾。

①博士号取得者の視野の狭さ、②組織管理能力等の専門的スキルの欠如について、大学の教員は、大学院生に対して研究者になるための教育を行っており、それが幅広い教育につながっていると主張する。しかし博士号取得者は、自身の専門分野で研究活動を行うことには自信を持っているものの、大学教員に求められる研究活動以外の組織管理能力等の習得や、専門を超えて学際的な研究をチームで協働して行うための訓練が十分に行われていないと感じている。調査によって、研究活動以外のスキル等を習得するための訓練の必要性が示されている⁹⁾⁻¹¹⁾。③教育活動への準備不足について、大学院教育では博士課程プログラムの中で、博士課程学生をティーチングアシスタント(Teaching Assistant: TA)として雇用し、指導法の訓練の機会を提供しているが、博士課程学生は、教育活動への準備の機会が十分に与えられていないと感じている。例えば、博士課程を通して培った研究能力を、教育、出版、申請書の作成

といった活動と相互にリンクさせるような訓練の必要性を求めていることが、調査によって示されている^{9)~12)}。④学位取得にかかる時間が長いことについては、人文科学や社会科学の分野で、ここ数十年の間に習熟すべき知識量が増加したことにより、博士課程修了までに必然的に長い年数がかかるようになったとしている¹³⁾。研究活動の継続には資金も必要で、自然科学やエンジニアリングの分野に比べて、人文社会科学分野は資金助成の機会が少ないために、経年により負債が増加することも示されている⁹⁾¹⁴⁾。⑤大学教員以外の雇用機会に関する情報の不足について、大学院生は大学教員に十分なポストがないことへの不安から、他の職業の選択につながるカリキュラムや求人情報を求めている。しかし、教員は大学以外での職務経験がないため、大学院生が必要とする情報等を十分に提供できないことが、調査によって示されている⁹⁾¹¹⁾。⑥学位取得後、安定した職を得るまでの時間が長いことについて、博士号取得者は課程修了後、すぐに終身在職権を得ることが難しく、パートタイムや一時的な雇用のポストを経ていることが、調査結果から明らかになっている⁹⁾¹⁰⁾¹²⁾。

Neradの博士課程教育に関わる6つの問題点は、大学院生の視点から捉えた、大学院教育の成果に対する指摘であり、1項で述べた大学院教育全体の課題とも関連している。Neradの④学位取得にかかる時間が長く、学位を取得しない学生が多い、との指摘は、1項で示した課題の2つ目の中途退学者の増加、4つ目の学位取得率の低さ、にも見られる。⑥終身在職権取得までの時間が長いこと、については、その理由がNeradの指摘する①博士号取得者の視野の狭さ、②組織管理能力等の専門的スキルの欠如、③教育活動への準備不足、⑤大学教員以外の雇用情報不足、に示されており、1項の3つ目に示した博士号取得者の就職難、につながっている。これらは、博士課程教育が大学院生に与える影響の大きさを示しており、アメリカの大学の中でも、学術大学院および専門職大学院の双方をリードする研究大学(research universities)にとって、切実な課題だ

といえる。研究大学の学術大学院においては特に、博士課程教育の充実によって優秀な研究者を育成し、研究活動の活性化を促進している¹⁵⁾。そのため、在籍する博士課程学生の多くは、博士号取得を目指している。しかし、博士課程教育は必ずしも充実しているとはいえず¹¹⁾、Neradの6つの問題点への対処が求められている。

B. 本研究の目的

大学院教育の課題に対し、大学、連邦政府や関係機関によってさまざまな対策が取られている。図書館もその課題に対処するために、それまでとは違った大学院生のための支援を提供する必要があるという議論が、2000年代以降から行われるようになった。実際に大学院生のための図書館サービスに関して、どのような支援が求められていて、先進的に行われている事例にどのようなものがあるかについては、第II章で見られるように、各大学で行われる調査^{16)~18)}や研究図書館協会(Association of Research Libraries: ARL)による調査報告^{19)~23)}等によって、ある程度まとめられ、方向性が示されている。

これらの報告に見られる調査対象の多くは研究大学の図書館であるが、大学院生のための先進的なサービスを積極的に行っている数館の事例である。現段階では大学院生向けサービスを横断的に調査した研究が見られないため、図書館が大学院生のためにどのようなサービスを提供しているか、判然としない。近年、図書館のウェブサイトが図書館サービスの入口として重視されている²⁴⁾ことから、本研究では、アメリカの研究大学において、大学院生のためにどのような図書館サービスが提供されているのかをウェブサイトから調査し、サービスの現状を明らかにすることを目的とする。

以下、第II章では、現在に至るまでの大学院生のための図書館サービスの展開を見るため、現時点における調査研究を文献から概観する。これらの先行研究をふまえたうえで、現在提供されている大学院生のためのサービスについて、第III章に研究大学図書館のウェブサイト限定して

行った調査の方法を、第IV章および第V章に調査結果を示す。第VI章では、調査によって明らかになったサービスの現状から、大学院教育の課題にどのように対処しているかを確認する。

II. 大学院生に対する 図書館サービスのあゆみ

A. 1960年代から2000年代の動向

大学院生に対する図書館サービスの取り組みは、大学院教育の課題が登場する前段階までどのように展開していったのか、本節では2000年代に至るまでの動向について述べる。1990年代までは、文献に見られる大学院生のためのサービスは、図書館利用指導に関するものであった。その中でBarbara Blummerの研究²⁵⁾は、アメリカの大学における大学院生のための図書館利用指導プログラムをたどっており、博士課程学生に対するサービスにも焦点を当てている。2000年代以降はサービスがさらに多様化し、事例報告や調査研究も増えている。よって、Blummerの研究を中心に、年代を追ってそれらの文献から振り返る。

1. 1960年代から1990年代

大学院生のための図書館サービスの動向について、Blummerは、図書館が大学院生に対するサービスにも意識を向けるようになったのは、1960年代に入ってからだとしている²⁵⁾。大学院生のための図書館利用指導の必要性を感じながら対応していなかったのは、1950年代から学部生が増加し、学部生に対する図書館利用指導や蔵書構築に専念していたためである²⁶⁾²⁷⁾。図書館では、読書促進や資料利用率を上げるために、特に学部生の図書館利用指導を重要視していた²⁸⁾が、1960年代に入ると、大学院生に対しても、研究スキル向上のための図書館利用指導が行われるようになった²⁷⁾²⁸⁾。

1970年代頃からは、図書館利用指導に加え、文献利用指導に関するコースがサブジェクトライブラリアンによって提供されている²⁹⁾。背景に、大学院プログラムの指導方法やコース内容の変化を受けて、研究がより専門的かつ多様化したことが

ある。大学院生の専門性の高いニーズに応えるために、主題別レファレンスツールの利用方法に関するセッションや図書館資料に関する個別文献指導が、図書館利用指導と関連して行われた³⁰⁾³¹⁾。図書館利用指導をさらに効率的に提供するために、授業のあとに個別指導を受けることができるプログラムを必須科目に組み込んで提供する事例³²⁾や、図書館員が作成した特定のトピックに関するパスファインダーを提供するといった事例³³⁾が見られる。

1980年代に入り、オンライン検索やCD-ROMデータベースの登場は、大学院生に対する指導に影響を及ぼした。これらを利用した新しい検索方法のトレーニング・セッションが、図書館利用指導プログラムの中に組み込まれ、ワークショップやセミナーが開催されるようになった²⁵⁾。図書館利用指導は文献利用指導を取り込む形で発展し、1980年代後半までにDiane W. Kazlauskasによって、授業に組み込まれた指導、文献指導セミナーやワークショップ、学問分野の範囲内での文献指導、個別文献指導の4つに類型化された³⁴⁾。Kazlauskasは、大学院生の専門性の高い個々のニーズに対応するには、一對一の個別指導が効果的であることを示唆している³⁴⁾。

1990年代に入ると、図書館利用指導プログラムは情報リテラシー教育に展開した²⁵⁾。きっかけは、1989年に公表された、アメリカ図書館協会(American Library Association: ALA)情報リテラシー委員会の最終報告書(Presidential Committee on Information Literacy: Final Report)である³⁵⁾³⁶⁾。ALAのレポートは、情報化時代において、情報リテラシーが生涯学習に貢献するものとして重要であることを示している²⁵⁾³⁵⁾。このレポートの影響によって、その後、情報リテラシーを強調した大学院生のための図書館利用指導プログラムが増加したと、Blummerは言及している²⁵⁾。さらに、データベースの発達やインターネットの普及にともなって、図書館利用指導プログラムの内容や性質に変化が見られるようになる。具体的には、データベースの理解を深めるための新たなプログラムとして、図書館のリサーチ

ガイドやオンラインカタログの利用方法の指導を提供する事例が示されている²⁵⁾³⁷⁾。1990年代には、図書館員と教員の協働によるプログラムの提供も始まっている²⁵⁾³⁸⁾。

2. 2000年代以降

2000年代に入ると、情報リテラシー教育に関するサービスでは、大学院生の多様化、遠隔教育の増加、テクノロジーの発展等が影響して、さまざまな文献が見られるようになる。その多くは、図書館員が自身の勤務する図書館において、大学院生の情報探索行動に関する調査を行ったもので、大学院生のリサーチスキルについて問題点を探り、情報リテラシー教育に関するサービスを提供するうえで、どのように対応していくべきかを示している³⁹⁾⁻⁴⁵⁾。

図書館員による調査には、大学院生のリサーチスキルに関する問題点として、研究過程において、インターネットによる検索で情報を収集している大学院生が多く、図書館が提供するデータベースや電子ジャーナルといった資料を活用しない、もしくはその存在を知らない大学院生も存在することが指摘されている⁴⁶⁾。大学院生は、図書館利用に関して熟達した利用者であるとは限らず、リサーチスキルの欠如が学位論文執筆に影響し、学位取得率の低下の原因にもつながっている⁴¹⁾⁴⁷⁾。大学院生の多様化により、留学生や、仕事や家庭を持つ学生等への対応の必要性もあり²⁵⁾、大学院生のリサーチスキルの向上を支援するプログラムの開発が求められるようになった。

Blummerは、大学院生のリサーチスキル向上のニーズに応えるためには、教員との協働が必要だとしている²⁵⁾。図書館員は博士課程を修了している者が少なく、博士研究について不慣れである³⁹⁾。だが、教員は大学院生にリサーチスキル習得のための支援が必要だと認識しており、図書館員による指導がなければ対応することができないと考えている⁴⁸⁾。このような問題を解決するための教員との協働によるプログラムが、事例として示されている²⁵⁾⁴⁹⁾⁵⁰⁾⁵¹⁾。

2000年以降は、特に遠隔教育におけるオンラ

イン学習に対応したサービスのニーズが高まり、オンラインによる情報提供や図書館利用指導支援が増加した。大学院生を指導者として教育するプログラムの中に、遠隔教育学生のためのネットミーティングやネットワーク接続を利用した文献利用指導の支援など、図書館以外の場所から利用できるさまざまなサービスの提供が見られる⁵²⁾。レファレンス相談においても、オンラインを利用した個別相談を提供している⁵³⁾。

一方で、大学院生は図書館内で研究を行うために、大学院生専用のスペースの提供を求めていることが、各大学で行われる調査等¹⁶⁾¹⁸⁾によって明らかになっている。多くの大学図書館で学部生のためのラーニングコモンズが成功したことも、大学院生のためのスペースの提供に関心が集まっている要因といえる⁵⁴⁾。

さらに、図書館のウェブサイトの構成も、情報提供のツールとしての役割を担うものとして重視されるようになった。図書館のウェブサイトに関する調査から、資料や設備等の充実だけでなく、提供方法も重要であることが示されている⁵⁵⁾。ウェブサイトは図書館サービスの入り口ともいわれ、その構成が図書館資料の活用に影響するとされている⁵⁶⁾。

B. Association of Research Librariesによる報告

ARLでは、大学院教育の課題を受けて、大学院生に対して従来とは違った支援を提供する必要性について、2007年頃から問題の指摘や対策の提案を行ってきた。ARLは、アメリカおよびカナダの公共図書館と大学図書館から成る、研究図書館の団体である。現在は120館を超えており、加盟館の大半は研究大学の図書館である⁵⁷⁾⁵⁸⁾。“図書館の連携、情報政策形成への関与、業務革新の支援などを通して、学術コミュニケーションにおける研究図書館の将来に影響力を行使することを目的”とし、“関連組織との協力、加盟図書館の統計の刊行のほか、ワークショップの開催、コンサルテーション業務などを行っている”⁵⁸⁾。近年の大学院生に対するサービスに関わる議論や

調査を主導し、推進していることから、ARLによる報告を検証する。

1. 2007年のフォーラム「Enhancing Graduate Education」

2007年に、ARLとCoalition for Networked Information (CNI)の共催で、「Enhancing Graduate Education: A Fresh Look at Library Engagement」と題したフォーラムが開かれた¹⁹⁾。図書館員、大学職員、教員等100人以上が集まり、大学院教育における図書館の役割について、基調講演やパネルディスカッション等が行われた。

フォーラムでは、大学院教育の課題を受けて、特に、留学生、仕事や家庭を持つ学生といった修士課程学生(master student)の増加による大学院生の多様化に対応するために、大学院生に対する図書館サービスの重要性が指摘された。ニューヨーク大学(New York University)¹⁶⁾、ミネソタ大学(University of Minnesota)¹⁷⁾、ワシントン大学(University of Washington)¹⁸⁾の各図書館では、大学院生のニーズを把握するために調査が行われ、その調査結果が報告された。大学院生が、図書館内での研究スペースを必要としていること、図書館資料の中でもオンラインで見られる資料やコレクションをよく利用していること、その利用方法の支援を求めていること等が明らかになった。

このフォーラムでは、図書館は大学院生のニーズを理解したうえで、大学院教育の課題に対応するために、スペースやオンライン上の資料といった図書館資料の提供に関するサービスを強化し、支援していく必要がある、と総括している¹⁹⁾²⁰⁾。

2. 2008年の現状調査「ARL SPEC Kit 308: Graduate Student and Faculty Spaces and Services」

2007年のフォーラムを受けて、ARLは2008年に、大学院生と教員のためのスペースとサービスに関する調査を行った²¹⁾。ARL加盟館にウェブを通じて調査を依頼し、65館から回答を得た。

そのうち63館が研究大学の図書館である。質問に対する回答結果とともに、事例も報告されており、研究大学の図書館を対象とした全国的な調査といえる。

65の回答館のうち48館が、大学院生や教員のためのサービスまたはスペースを提供している、もしくは提供する予定であると回答しており、大学院生に対する図書館サービスの必要性の認識が広がっていることがわかる。この調査では、「リサーチサービス」、「指導支援サービス」、「テクノロジーに関するサービス」、「個々の能力向上のためのサービス」について、提供しているサービスの内容を質問している。それぞれの質問で最も多かった回答は、「リサーチサービス」ではレファレンス相談、「指導支援サービス」では指導者に対する図書館利用指導スキルに関するワークショップの提供、「テクノロジーに関するサービス」ではコンピュータの提供、「個々の能力向上のためのサービス」では情報リテラシーに関する指導の提供であった。これらのサービスは図書館単独での提供に限らず、学内のライティングセンター、教育開発オフィス、コンピュータを扱う部署等とさまざまな形で連携が行われていることが、回答に示されていた。

この調査は、大学院生だけでなく教員に対するサービスについても質問している。回答結果より、同じサービスを大学院生と教員の両方に提供している図書館が多いことから、将来の教員候補である大学院生と教員のニーズが類似しており、専門性の高いサービスが求められていると理解できる。

3. 2009年のレポート「Transformational Times」

ARLは、研究図書館が置かれている環境について分析を行い、2009年に「Transformational Times」と題したレポートを公表した²²⁾。研究、教育、学習における図書館の役割の動向について、今後の研究図書館の役割を戦略的に考えるうえで必要と思われる傾向と論点がまとめられている。

レポートには、研究図書館全体の傾向として、

研究支援のための図書館員の専門性の向上、学内他部署との連携や教員との協働による支援、さまざまな形態での資料提供とネットワーク環境の整備、留学生および仕事や家庭を持つ学生といった学生の多様化への対応、学習スペースの提供、について、図書館サービスの課題として考慮していく必要性が提示されている。その中に、教員や大学院生に対して、特殊コレクションやウェブ上の情報も含めた蔵書構築の方針や、学習スペースといった物理的環境の整備等が、教員や大学院生の研究や教育に影響を与えることから、図書館はさまざまな連携によって、新たな支援の方法を構築する必要が生じるであろう、との指摘が見られる²²⁾⁵⁹⁾。これは、2007年のフォーラム¹⁹⁾や2008年の調査²¹⁾から明らかになった、図書館の大学院生に対するサービスの課題やニーズと共通している。よって、大学院生に対するサービスの課題に対応していくうえでの、今後の方向性が示されているといえる。

4. 2012年のレポート「Research Library Services for Graduate Students」

ARLでは2011年から、今後、図書館が展開し担っていくべき新たな役割やサービスについて、「New Roles for New Times」という一連の研究プロジェクトを行っている。ARLは、今後新たなサービス領域の核となるものとして、資料保存のためのデジタルキュレーション、図書館におけるリエゾンの役割の変化、とともに、大学院生のための図書館サービスを取り上げている。

「Research Library Services for Graduate Students」と題したレポートは、「New Roles for New Times」の一連の研究の1つとして、2012年に公表された²³⁾。先進的な大学院生サービスを実施している9つの研究大学図書館の図書館員や図書館長に、インタビュー調査を行い、調査によって明らかになった事例や戦略について、4つの領域から報告している²³⁾⁶⁰⁾。

1つ目は、大学院生のニーズの多様性に対応するサービスである。昨今の大学院生は、資料や書誌情報の管理、データ分析など高度な技術の習得

が求められている。こうした専門性の高いニーズに対する支援は、図書館員が個々に対応するには限界がある。そのため、複数の図書館員によってそれぞれの専門分野で補い合うといった、図書館員間の協力や連携によって対応している事例が報告されている。また、大学院生の学生としてのライフサイクルの中には、学習、指導、研究、分析、執筆、就職活動といったさまざまな活動がある。属性においても、仕事や家庭を持つ学生、研究から長期間離れていた学生、留学生等多様であるため、それぞれのニーズに応じて支援を行っている。

2つ目は、大学院生専用のスペースの提供である。研究に集中できるスペースのニーズが増加したことから、大学院生専用の閲覧席や学習スペースを提供することによって、図書館内での快適性を改善することにつながったとしている。リサーチcommonsやスカラリーcommonsといったスペースを設け、さまざまな支援をワンストップで提供することを重視した事例も報告されている。大学院生のそれぞれの専門分野に応じた資料や、長時間快適に過ごすことのできる什器を備えたスペース内で、図書館員等が研究に関する相談を受けるといった専門的な支援も行われている。

3つ目は、学内の他部署との連携である。図書館だけでは担いきれないサービスは、学内の他部署と連携して行われており、文献の収集支援やデータの管理、著者の権利等をテーマにしたワークショップを他部署と共催するといった事例が報告されている。連携によって、大学院生が習得すべき研究能力や図書館の役割を把握することもでき、大学院プログラムへの対応にもつながるとしている。

4つ目は、大学院生の専門性に特化したニーズへの対応である。パブリックサービスやインストラクション部門に、大学院生サービスのための図書館員を配置して支援を行っている事例が多く見られる。図書館の組織改編にあたっては、大学の方針を示すアカデミックプランとの整合性がはかられ、図書館員自身の専門能力を向上させるために、新しい専門知識だけでなく、コラボレーショ

ン能力やチーム管理能力の獲得に重点が置かれている。

予算削減や教育の成果についての精査の増加といった厳しい現状の中、大学院生の多様なニーズに対応することは、図書館が大学院教育の価値をさらに高める大きな機会であるとして、レポートは、調査によって明らかになった先進的なサービスの促進を提言している。

C. 現状調査の意義

図書館では大学院生に対し、1960年代以降、大学院生の専門性の高いニーズに応じて、サービスを提供していた。1980年代に電子媒体が登場したことによって、図書館利用指導サービスとともに、新たな資料の活用や利用促進、リサーチスキル向上のための情報リテラシー教育に関するサービス等を提供してきた。

2000年代以降は、大学院生の多様化や学位取得率の低下等の影響から、大学院教育の課題にどのように対応していくべきか、研究図書館を中心に図書館が担う役割について議論が行われている。その議論は、従来のサービスには見られなかった先進的なサービスによる改革の指針を示しており、実際に提供している図書館の事例から、その方向性を知ることができる。しかし、事例の多くは、個々の大学での調査や特定のサービスに関する調査といった断片的な報告である。相対的に、大学院生向けのサービスに関する研究は、学部生向けサービスの研究ほど盛んに行われていない³⁹⁾。背景には、大学院生特有の専門性の高い多様なニーズを把握し対応することが、学部生に比べて難しいという現状がある⁶¹⁾。

その中で、大学院生のための図書館サービスに関する広範な調査を行った、Hannah Gascho Rempelの研究²⁴⁾がある。自身が勤務するオレゴン州立大学(Oregon State University)の図書館のウェブサイトを開発するために、ARLに加盟している他の大学図書館が大学院生向けにどのようにウェブサイトを開発しているのか、その方法を調査している。この調査では、大学院生に向けて提供されているサービスの種類や内容等はある程度把握

できるが、サービス項目の全容や、それぞれのサービスについての内容や提供館数までは示されていないため、大学院生のためのサービスの傾向が判然としない。しかし、ウェブサイトの設計に焦点が当たっているこの調査では、図書館のウェブサイトが、多くの利用者にとって図書館への入口だと認識されており、図書館がその構成を重視していることを示している²⁴⁾。よって、ウェブサイトから大学院生のためのサービスを調査することによって、サービスの現状を把握することができると考えられる。

III. ウェブサイトによる現状調査の概要

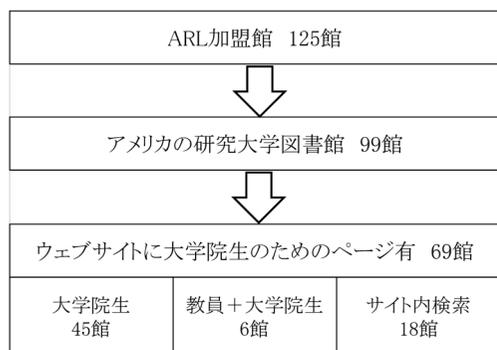
A. 調査目的

本調査の目的は、研究大学の図書館のウェブサイトに掲載されている情報から、大学院生のためのサービスを調査し、現状を明らかにすることである。図書館によって掲載方法はさまざまで、例えば、学部生と大学院生を区別せずサービスを掲載しているところもあれば、学部生と大学院生それぞれのページを設け、対象ごとにサービスをまとめて掲載しているところもある。その中で、大学院生のためのサービスをまとめたページを掲載している図書館は、大学院生を対象としたページを作成することによって、大学院生に対して積極性をもってサービスを提供していることを示していると考えられる。ウェブサイトの記載と実際の提供状況が異なる可能性もあるが、ページの有無は大学院生のためのサービスを提供している図書館を抽出する基準になりうると判断した。よって、図書館のウェブサイト上の、大学院生のためのページに記載されているサービスについて調査を行った。

B. 調査対象

調査対象は、ARLに加盟しているアメリカの研究大学の図書館が提供する、ウェブサイトの情報とした。ARLに加盟している研究大学の図書館は、研究活動における評価の高い大学の図書館であり、高等教育や学術コミュニティにおいて主導的役割を担っている⁵⁷⁾ことから、調査対象に

アメリカの研究大学における大学院生のための図書館サービスの現状：ウェブサイト調査をもとに



第1図 調査対象館の抽出手順

選択した。

ARL加盟館リスト⁶²⁾にある125館のうち、アメリカの研究大学図書館99館から、ウェブサイトにて大学院生を対象としたサービスをまとめた形で表示している図書館を抽出した。抽出の手順を第1図に示す。

まず、「For Graduate Students」や「Services for Graduate Students」といったように、大学院生を対象としたサービスをまとめたページの表示がある図書館の抽出を行った。その結果、45館が該当した。次に、大学院生のみをサービスの対象としたページは存在しないが、「For Faculty and Graduate Students」のように、教員と大学院生を対象としたページの表示がある図書館の抽出を行った。その結果、6館を抽出した。この6館は、対象に大学院生が明記されており、先に抽出した大学院生のためのサービス項目と類似していたため、調査対象とした。さらに、上記の手順でまとめた表示が見られなかった図書館について、各図書館のウェブサイト内の検索を行った。検索窓に「Graduate」の語を入れ、大学院生、もしくは教員と大学院生のためのサービス項目がまとめられているページの検索を行い、18館を抽出した。

大学院生を含む表示についてはほかに、「For Students」が見られた。このような表示は、大学院生と学部生を区分する記載がなく、対象がすべての学生なのか、大学院生もしくは学部生のどちらかを特定しているのか不明瞭なため、大学院生

に対するサービスを意識的に行っていると判断しがたいと考え、対象から除外した。

抽出の結果、69館が調査対象に該当した。この69館の大学は、カーネギー高等教育機関分類(Carnegie Classification of Institutions of Higher Education)の2010年版⁶³⁾で、博士授与大学(Doctorate-granting Universities)のうち、研究大学に分類されている。内訳は、RU/VH (very high research activity: 非常に高い水準の研究活動)が61館、RU/H (high research activity: 高い水準の研究活動)が8館である。調査対象館および各ウェブサイトのURLについては、付録にまとめている。

C. 調査方法

調査対象69館のウェブサイトから、大学院生を対象としたページに記載されているサービスの情報を抽出した。本調査は、2014年8月から12月に行った。抽出した情報から、サービスの構成と、サービスの詳細について分析した。

1. サービスの構成

ウェブサイト上で、大学院生のためのサービスをどのように構成し、表示しているかを調査した。大学院生のページにサービスを列挙して表示しているのか、複数のサービスをいくつかのまとまりに大別して表示しているのか、大別している場合はどのような見出しがつけられていて、階層構造はどのようになっているのか、図書館ごとにワークシートに記録した。サービスの構成についての調査結果は第IV章に示す。

2. サービスの詳細

ウェブサイトに掲載されているサービスの詳細について、内容、対象、提供元を調査した。図書館ごとに、サービスの名称と内容の説明を、ワークシートに写し取る形で記録した。サービスの内容とあわせて、対象や提供元の情報も記録した。サービスの対象については、大学院生に特化して提供されているサービスであるのか、他の対象も含む一般的なサービスの中で大学院生に役立つ

サービスが提供されているのかを見るために、大学院生もしくはその他を対象とする旨が明記されているかについて記録した。サービスの提供元は、ウェブサイトの URL の階層構造をたどることで、ウェブサイトの発信元を調査し、図書館が独自に行っているか、図書館以外の学内他部署や学外の機関が提供しているかを判断した。図書館以外のページにリンクしている場合は、リンク先が提供元であると判断した。サービスの詳細についての調査結果は第 V 章に示す。

IV. ウェブサイトにおけるサービスの構成

A. 階層構造

ウェブサイト上で、調査対象館が大学院生のためのサービスをどのように表示しているかを分析した。調査対象 69 館のうち 60 館 (86.9%) が、大学院生のためのサービスをいくつかは大別し、それぞれに見出しをつけ、階層化してページを構成するという形で掲載していた。60 館がつけていた見出しの数は、館によってさまざまで、少ないところでは 2 つ、多いところでは 11 であった。見出しの下に個別のサービスのページを表示するという 2 層構造をとっているところが多く、見出しをさらに細分して 3 層構造で表示している

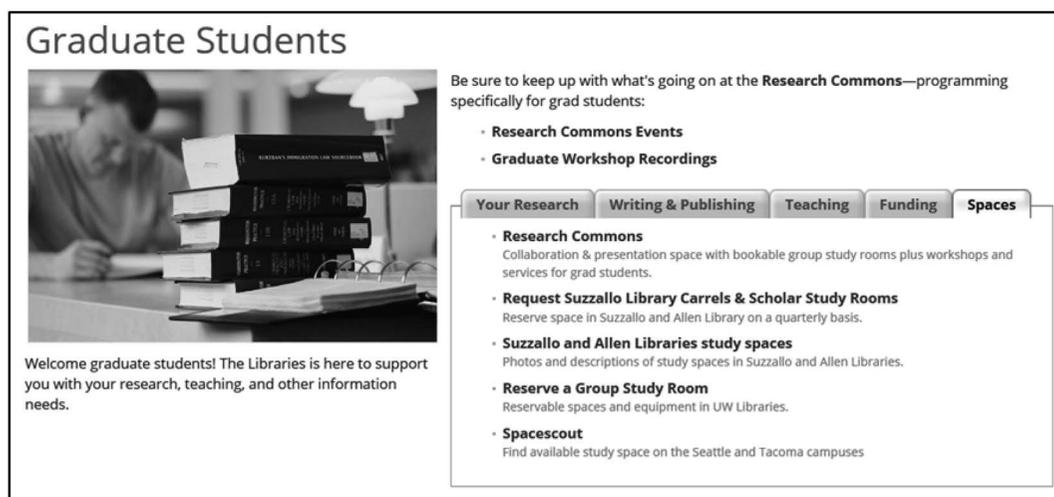
ところも見られた。

例として、ワシントン大学図書館のウェブサイトを第 2 図に示す。トップページから「Graduate Students」と示された第 2 図の大学院生のためのページに移動すると、大学院生のためのサービスがタブによって「Your Research」、「Writing & Publishing」、「Teaching」、「Funding」、「Spaces」の 5 つの見出しに分けられていた。「Spaces」の見出しがついたタブには、5 つのサービスが列挙されており、サービスの構成が 2 層の階層構造になっていた。このように、見出しをつけて階層化することによって、さまざまな情報がある程度まとめられて表示されていた。

B. 見出しの表示

1. 見出し語の整理

次に、60 館がつけていた見出しの表記方法を分析した。図書館によって表記はさまざまであるが、同じ語が用いられている、もしくは内容が類似していると判断できるものがあり、ある程度共通性が見られた。見出しに用いられている語について、3 館以上が掲載していたものを第 1 表に示す。



Graduate Students

Be sure to keep up with what's going on at the **Research Commons**—programming specifically for grad students:

- **Research Commons Events**
- **Graduate Workshop Recordings**

Your Research | **Writing & Publishing** | **Teaching** | **Funding** | **Spaces**

- **Research Commons**
Collaboration & presentation space with bookable group study rooms plus workshops and services for grad students.
- **Request Suzzallo Library Carrels & Scholar Study Rooms**
Reserve space in Suzzallo and Allen Library on a quarterly basis.
- **Suzzallo and Allen Libraries study spaces**
Photos and descriptions of study spaces in Suzzallo and Allen Libraries.
- **Reserve a Group Study Room**
Reservable spaces and equipment in UW Libraries.
- **Spacescout**
Find available study space on the Seattle and Tacoma campuses

Welcome graduate students! The Libraries is here to support you with your research, teaching, and other information needs.

第 2 図 ワシントン大学図書館の大学院生のためのページ

出典: <http://www.lib.washington.edu/services/graduate>, (accessed 2015-01-28)

第1表 見出し語の掲載状況 (N=60)

| 用いられている語 | 館数 | 比率 ^{*1} |
|------------------------|----|------------------|
| Research | 50 | 83.3% |
| Teaching | 45 | 75.0% |
| Services ^{*2} | 31 | 51.7% |
| Resources | 14 | 23.3% |
| Librarian | 13 | 21.7% |
| Technology | 13 | 21.7% |
| Spaces | 12 | 20.0% |
| Publishing | 12 | 20.0% |
| Borrow | 11 | 18.3% |
| Writing | 7 | 11.7% |
| Theses/Dissertations | 6 | 10.0% |
| Data | 5 | 8.3% |
| Funding | 3 | 5.0% |
| Manage/Citation | 3 | 5.0% |

^{*1} 比率はそれぞれの館数を調査対象館数（60館）で割った数

^{*2} (内訳) 図書館の基本サービス 19館 (31.7%)
 学生生活支援のための情報 12館 (20.0%)

2. 活動領域による分類

第1表の結果より、見出しに最も多く用いられていた語は「Research」で、Researchに関連した見出しをつけている図書館は50館（83.3%）であった。Researchや、Research Support, Research Tools等の見出しが見られ、それらの見出しの下に表示されているサービスには、主題別リサーチガイドの提供、文献管理ツールの紹介、データ管理に関する情報といった項目が列挙されていた。この結果から、「Research」は、大学院生の研究・調査活動に関するさまざまな支援や情報をまとめた見出しであることがわかる。

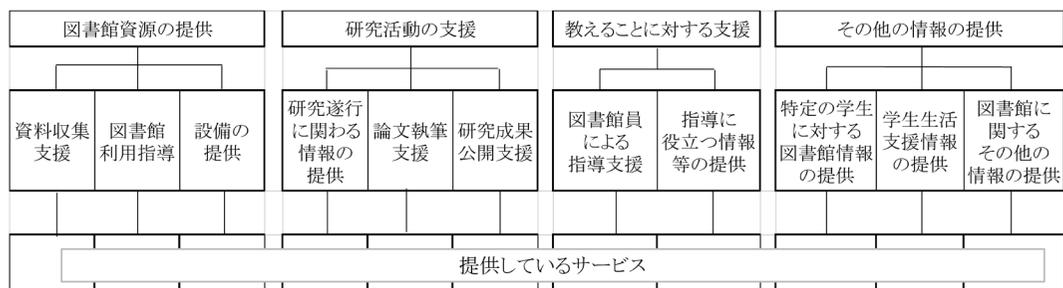
2番目に多く用いられていた語は「Teaching」で、Teachingに関連する見出しをつけている図書館は45館（75.0%）であった。Teachingや、Teaching Support, Teaching Assistants等の見出しが見られ、それらの見出しの下に表示されているサービスには、コースリザーブの授業での利用に関する情報や、教員やTAが授業を行う際の指導支援やガイドの提供といった項目が見られた。この結果から、「Teaching」は、大学院生が教える活動を行う際に必要な支援や情報をまとめた見出しであることがわかる。

3番目に多く用いられていた語は「Services」で、Servicesに関連する見出しをつけている図書館は31館（51.7%）であった。ServicesやLibrary Servicesの見出しには、資料の貸出に関する情報、図書館員への相談案内、スペースの提供といった、図書館が従来から提供している資料や物理的資源に関するサービスの項目が列挙されていた。Servicesの語は含まれていないが、Using the Library, General Information, The Basicsといった見出しの下にも同様の項目が見られ、図書館の基本サービスがまとめられていた。ほかに、Other ServicesやNon-library Servicesといった見出しには、基本となる図書館サービス以外の、図書館をより便利に活用するための情報や、学内他部署のウェブサイトを紹介する項目が列挙されていた。For Fun, Campus Resourcesといった見出しからも同様の傾向が見られ、大学院生が学生生活を送るうえで必要な支援のための情報がまとめられていた。この結果から、「Services」は、図書館の基本サービスに関する見出しと、学生生活支援のための情報に関する見出しの2つに整理することができる。

これら3つの見出し語は、大学院生の学生としてのライフサイクルの中で、学習する、研究する、教える、といった活動領域に即して、さまざまな情報を包括的にまとめた表記になっていることから、これらを参考にサービスを整理した。その結果、大学院生のためのサービスを4つに整理することができた。図書館が提供するさまざまな資料やスペースの利用等に関する情報を「図書館資源の提供」、大学院生の研究・調査活動に応じた支援や情報を「研究活動の支援」、大学院生が教える活動を行う際に役立つ支援や情報を「教えることに対する支援」、これら3つには当てはまらない、大学院生の学生生活を支援するための情報を「その他の情報の提供」とした。

3. 具体的領域による分類

第1表の4番目以降の語を用いる見出しは、個別のサービスやそのサービスに関連する情報を示しており、2項で整理した4つの活動領域の



第3図 サービスの構成

サービスの内容を具体的に表していた。例えば、Resources の語を含む見出しにあるサービスは、図書館が提供する図書や電子ジャーナルといった資料の紹介や、そのアクセス方法であった。Borrow の語を含む見出しにあるサービスは、資料の貸出利用に関する情報であった。これらの見出しは、4つの活動領域のうち、「図書館資源の提供」にまとめられる個別のサービスの内容を具体的に示している。よって、第1表の4番目以降の見出し語を、4つの活動領域に振り分けた。見出しをつけていなかった9館については、掲載されている個別のサービスを、記述内容に基づいて4つの活動領域に振り分けた。

それぞれに振り分けた見出し語や、個別のサービスの表示および内容を参考に、まとまりとしての具体的な内容の表示をつけた。その結果、4つの活動領域をさらに細分する形で、11の具体的領域に整理することができた。具体的領域については、「図書館資源の提供」を、資料収集支援、図書館利用指導、設備の提供、「研究活動の支援」を、研究遂行に関わる情報の提供、論文執筆支援、研究成果公開支援、「教えることに対する支援」を、図書館員による指導支援、指導に役立つ情報等の提供、「その他の情報の提供」を、特定の学生に対する図書館情報の提供、学生生活支援情報の提供、図書館に関するその他の情報の提供、とした。

4. まとめ

見出しの表示方法を分析した結果、大学院生の4つの活動領域をもとに、11の具体的領域の下に個別の提供しているサービスをまとめ、3階層に

整理することができた。サービスの構成の全体像を第3図に示す。ウェブサイトから目的のサービスや情報を入手しやすくするために、大学院生の活動領域に即して見出しを表示していることがわかる。

V. 大学院生のための 図書館サービスの詳細

ウェブサイトに掲載されている大学院生のためのサービスについて、内容、対象および提供元に関する調査結果を、第IV章B節2項で整理した大学院生の4つの活動領域ごとに、A節～D節に示す。第2表～第5表は、それぞれの活動領域で提供しているサービスをまとめたものである。第IV章B節3項で整理した具体的領域ごとに、提供館数の多いものから順に示している。各サービスの提供館数は、それぞれのサービスに関する情報を大学院生のためのページに掲載していた図書館数である。中には、個々のサービスの表示や内容によって複数のサービスに該当すると考えられる等、区別があいまいな項目も存在した。また今回の調査では、学部生や教員のためのサービスとの比較調査を行っていないため、他の利用者向けのサービスとの共用部分の区別は行わず、大学院生のためのページに掲載されていたサービスについて示している。よって、実際の提供館数と異なる可能性があることを考慮する必要がある。

A. 図書館資源の提供

図書館資源の提供に関するサービスは、図書館サービスの基本といえるものである。調査対象の

第2表「図書館資源の提供」に関するサービス

(N=69)

| 具体的領域 | 提供しているサービス | 館数 | 比率* |
|---------|--|----|--------|
| 資料収集支援 | ILL サービス | 58 | 84.1% |
| | 学内で利用できる図書館資料 | 57 | 82.6% |
| | 貸出サービス | 39 | 56.5% |
| | 電子配信サービス | 37 | 53.6% |
| | 購入リクエストフォーム | 37 | 53.6% |
| | 学生のためのコースリザーブガイド | 28 | 40.6% |
| | 機関リポジトリ | 26 | 37.7% |
| | 学外から図書館資料へのリモートアクセス | 26 | 37.7% |
| | 電子メールアラート・RSS フィードの利用方法 | 23 | 33.3% |
| | ウェブサービスの利用方法 (Google・Google Scholar, BrowZine 等) | 18 | 26.1% |
| | 資料の学内配送サービス | 15 | 21.7% |
| 図書館利用指導 | 図書館員への相談 | 69 | 100.0% |
| | ワークショップ | 36 | 52.2% |
| | 図書館利用案内 | 30 | 43.5% |
| 設備の提供 | 機器の貸出, ワイヤレス接続等に関する情報 | 41 | 59.4% |
| | キャレル | 34 | 49.3% |
| | グループ学習室 | 28 | 40.6% |
| | ロッカー, 書棚 | 22 | 31.9% |
| | 大学院生が利用できる学習室 | 22 | 31.9% |
| | 学位論文執筆のための学習室 | 10 | 14.5% |
| | リサーチコモンズ | 8 | 11.6% |

* 比率はそれぞれの館数を調査対象館数 (69 館) で割った数

69 館すべてが、関連する何らかのサービスを掲載していた。結果を第2表に示す。

1. 資料収集支援

資料収集支援には、さまざまな媒体の文献や資料の提供、それらの利用方法に関する情報が見られた。提供率が高かったのは、「ILL サービス」58 館 (84.1%)、「学内で利用できる図書館資料」57 館 (82.6%) であった。

図書館が提供する資料について、「学内で利用できる図書館資料」に関する情報には、図書や雑誌、データベース、電子ジャーナル、電子書籍といった、図書館が提供するさまざまな資料の利用案内が掲載されていた。自館の蔵書検索画面や、カタログの検索画面、デジタル資料のログイン画面等を表示しているところも見られた。「機関リポジトリ」は、学内の電子化された学位論文やコレクション等が見られることから、資料収集のツールの1つとして掲載されていた。

資料の利用方法に関しては、学内だけでなく学外からの利用方法も示すことで、大学院生を含む利用者が、必要とする資料に速やかにアクセスできるように対応している。「貸出サービス」の提供については、大学院生は学部生よりも長期間利用できるところが多く、大学院生の中でさらに貸出条件を区分し、博士課程学生や博士候補生に対して、修士課程学生よりも長期の貸出を行っているところも見られた。「学生のためのコースリザーブガイド」には、受講するクラスの情報や授業で使用されるテキストを検索するといった、リザーブブックの利用方法の説明等が掲載されていた。コースリザーブの検索画面やログイン画面に移動するところもあった。

2. 図書館利用指導

図書館利用指導では、「図書館員への相談」に関する情報を 69 館すべてが、「ワークショップ」に関する情報を 36 館 (52.2%) が、「図書館利用

案内」に関する情報を 30 館 (43.5%) が提供していた。

「図書館員への相談」に関する情報では、図書館内でサブジェクトライブラリアン等の図書館員と対面で相談する以外にも、電子メール、電話、チャットといったさまざまな相談方法を提示しており、学外からも相談できるようになっている。対面での相談に関して、相談日時予約フォームを掲載しているところも見られた。「ワークショップ」に関する情報には、図書館員による図書館利用方法や情報リテラシーに関するワークショップの利用案内が掲載されていた。利用を希望する場合、図書館に直接連絡する方法のほかに、ウェブサイト予約フォームから申し込むことができる場所もあった。

「図書館利用案内」に関しては、図書館員による図書館ツアーやオリエンテーションの利用案内が掲載されていた。すべての利用者を対象としたものだけでなく、大学院生を対象とした情報も掲載しているところも見られた。セルフトレーニングに有用な利用の手引きとして、PDF やオンラインチュートリアルを掲載し、図書館以外の場所から間接的に指導を受けることを可能にしているところもあった。

3. 設備の提供

設備の提供では、図書館内のスペースや備品といった、物理的資源を活かしたサービスが見られた。提供率が高かったのは「機器の貸出、ワイヤレス接続等に関する情報」で、41 館 (59.4%) であった。

「機器の貸出、ワイヤレス接続等に関する情報」には、図書館内でパソコン等の機器を貸し出すサービスの説明や、それらを利用するときに必要なワイヤレス接続等に関する情報が掲載されていた。学内の技術的な支援を行う部署のページをリンクしているところも見られた。

図書館内のスペースに関しては、個人やグループといった学習スタイルによって使い分けることのできる多様なスペースを提供しており、それぞれの利用案内を掲載していた。そのほとんどが利

用者全般を対象とする中、スペースの一部を大学院生専用に整備しているところが見られた。その中で特徴的なのは、「学位論文執筆のための学習室」である。ニューヨーク大学図書館の Dissertation Writers' Rooms は、利用資格者をコースワーク修了後に資格試験に合格した博士候補生に限定して、論文執筆に専念できるスペースとして提供している。手続きを経た博士候補生は、ID カードを用いて入室し、1 部屋に 10 席設けられたデスクの 1 つを一年間継続して利用することができる⁶⁴⁾。個人用のスペースはほかに、「キャレル」が提供されていた。利用者を大学院生に限定しているところも多く、利用申請によって一定期間継続して利用することができる。

複数で利用可能なスペースとしては、グループワーク、図書館利用指導の授業やプレゼンテーションの練習等に利用できるスペースを提供しているところが見られた。すべての利用者を対象としているところが多い中、大学院生と教員の交流を目的として、機材が装備されている視聴スペースやカンファレンスルーム等を提供しているところも見られた。

多様なニーズに対応するスペースとしては、「リサーチコモンズ」が見られた。研究に関するさまざまなサービスをワンストップで提供しているスペースで、その利用案内を掲載していた。スカラコモンズやラーニングコモンズといったスペースに、同様の機能を持たせているところもあり、図書館員が常駐して、コンピュータに関するサービスや、大学院生や教員向けのワークショップを提供している図書館も見られた。ワシントン大学図書館のリサーチコモンズでは、文献管理、論文執筆や出版、研究資金調達のための情報提供といったワークショップを提供している。専門の図書館員に相談することもでき、研究に関わる一連のサービスの提供が行われている⁶⁵⁾。ニューヨーク大学図書館では、大学院生専用の学習スペースとともに、オーディオ、ビデオ、画像の編集や配信等を行うことができるスペース (Digital Studio) や、統計分析、地理情報システム (Geographic Information System: GIS)、質的データ分析等を

行うためのスペース（Data Services Lab）を提供し、フロア全体をリサーチコモンズとしている。専用の機器の提供に加えて専門のスタッフが常駐しており、個別相談やワークショップの提供等、大学院生が図書館内で研究活動を行うことのできる環境を整備している⁶⁴⁾。

館内備品については、「ロッカー」の利用案内が掲載されていた。博士候補生に可動式のカートを提供している図書館もあり、利用申請後、一定期間継続して利用することが可能である。カートには鍵をかけられることから、研究に必要な資料を収納して、図書館内の好きな場所に移動することができる。

4. まとめ

図書館資源の提供に関するサービスには、あらゆる利用者に共通の一般的な図書館サービスの中で、大学院生が学習、研究等を行っていくうえで必要な図書館資源に関する情報が掲載されていた。さまざまな媒体の文献や資料を、図書館内だけでなく学外からも利用可能にし、大学院生の多様化に対応している傾向が見られた。設備の提供では、大学院生専用のスペースを提供し、大学院生が図書館に長時間滞在できるように、環境の整備を意識的に行っているところも見られた。

B. 研究活動の支援

研究活動の支援に関するサービスは、大学院生が研究者として活動するための支援や情報の提供である。69館すべての図書館が、関連する何らかのサービスを掲載していた。結果を第3表に示す。

1. 研究遂行に関わる情報の提供

研究遂行に関わる情報の提供には、研究を行っていくうえで有用な図書館資源やデータ管理等に関する情報が見られた。提供率が高かったのは、「主題別リサーチガイド」63館（91.3%）、「研究に関する相談」62館（89.9%）であった。

「主題別リサーチガイド」では、サブジェクトライブラリアンやリエゾンライブラリアンといっ

た図書館員が、それぞれの専門分野別にガイドを作成し提供していた。併記された図書館員のリストには、図書館員の連絡先や簡単なプロフィールも掲載されており、「研究に関する相談」では、リストから専門分野の近い図書館員を検索し、図書館員に連絡を取って相談予約等を行うことができるようになっていた。全般的な事項を対象としているA節2項の相談サービスよりも、研究に関連した事項への対応が行われている。

「データの研究利用に関する情報」には、統計やGISといったデータを研究に利用するために、データに関するソフトウェアの提供や、図書館員から専門的なアドバイスを受けられるサービス等の利用案内が見られた。「データ管理に関する情報」には、データ管理計画書の書き方等の情報が掲載されていた。学内の専門の部署と連携して情報を提供しているところや、学内他部署が提供する情報をリンクしているところもある。データを利用する研究者が研究助成金を申請する場合は、データ管理計画（Data Management Plan: DMP）を提出する必要があるため、申請先である国立科学財団（National Science Foundation: NSF）や国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）等の機関が提供している情報をリンクしているところも見られた。ワシントン大学図書館では、ResearchWorks Servicesとして、データ管理に関する情報とともに、アーカイブサービス、ジャーナルホスティングサービス、GISサービスといったさまざまなサービスを提供しており、データに関するあらゆる支援を図書館が行っている⁶⁶⁾。

「研究資金に関する情報」については、研究を継続していくうえでの資金確保の必要性から、学内や学外の資金提供先のウェブサイトの紹介や、図書館員による資金調達のためのワークショップの開催といった情報が掲載されている。研究助成金を得るためには、資金提供先に申請書類の提出が必要になるため、研究助成金の申請書類の書き方に関する説明も行われている。

「デジタル資料の利用指導・相談」は、オーディオ、ビデオ、画像といったデジタル資料を研究に利用する際に、専門の図書館員から利用方法等に

第3表「研究活動の支援」に関するサービス

(N = 69)

| 具体的領域 | 提供しているサービス | 館数 | 比率* |
|---------------|-----------------------------------|----|-------|
| 研究遂行に関わる情報の提供 | 主題別リサーチガイド | 63 | 91.3% |
| | 研究に関する相談 | 62 | 89.9% |
| | データの研究利用に関する情報 | 28 | 40.6% |
| | 研究資金に関する情報 | 24 | 34.8% |
| | データ管理に関する情報 | 20 | 29.0% |
| | デジタル資料の利用指導・相談 | 18 | 26.1% |
| | 研究プロセスに関する情報 | 10 | 14.5% |
| | 研究倫理や研究トラブルに関する情報 | 7 | 10.1% |
| | 研究活動におけるネットワークツールに関する情報 | 6 | 8.7% |
| | 情報リテラシースキル習得のための情報 | 5 | 7.2% |
| | 大学院生のためのインターンシッププログラムに関する情報 | 2 | 2.9% |
| 論文執筆支援 | 文献管理ツールの紹介 | 56 | 81.2% |
| | 引用スタイルの紹介 | 34 | 49.3% |
| | ライティングセンターに関する情報 | 21 | 30.4% |
| | 論文の書き方に関する情報 | 20 | 29.0% |
| | インパクトファクター・引用分析に関する情報 | 17 | 24.6% |
| | 剽窃・盗作回避方法に関する情報 | 17 | 24.6% |
| | Citation Linker の紹介 | 6 | 8.7% |
| | 文献レビューに関する情報 | 4 | 5.8% |
| | 論文執筆計画のための行程計算表 | 3 | 4.3% |
| 研究成果公開支援 | 著作権・フェアユースに関する情報 | 40 | 58.0% |
| | オープンアクセス (OA)・学術出版に関する情報 | 34 | 49.3% |
| | 電子学位論文 (ETD) の提出方法に関する情報 | 29 | 42.0% |
| | 著者の権利に関する情報 | 13 | 18.8% |
| | APC 支払いのための資金提供等に関する情報 | 7 | 10.1% |
| | デジタルオブジェクト識別子 (DOI)・研究者 ID に関する情報 | 5 | 7.2% |
| | 論文製本サービスの紹介 | 4 | 5.8% |
| | プレゼンテーションに関する情報 | 4 | 5.8% |
| | データ等の研究成果の公開方法に関する情報 | 2 | 2.9% |

* 比率はそれぞれの館数を調査対象館数 (69 館) で割った数

ついでに指導を受けることができるサービスで、その利用案内が掲載されていた。デジタルプロジェクト遂行に必要な情報の提供も見られ、プロジェクトに関する相談に応じるどころや、学内のデジタルサービスを提供する専門の部署と連携しているところもあった。

これらの情報を、研究の流れに沿って概観できるように、「研究プロセスに関する情報」を掲載しているところが見られた。ニューヨーク大学図書館では、図書館で利用できる資料や図書館員への相談方法、研究資金や文献管理に関する情報、論文執筆のための情報等、さまざまな情報の収集方法を研究の過程に沿って一覧でき、それぞれの

サービスにリンクするように表示している⁶⁷⁾。

ほかに、「研究倫理や研究トラブルに関する情報」には、研究を行っていく中で、データ収集の際に被験者とのトラブルを防ぐための情報や、研究倫理に関わる問題について相談することができるサービスが掲載されていた。学内の倫理委員会等の専門部署のページをリンクしているところもあり、中には弁護士が相談に応じる大学も見られた。「研究活動におけるネットワークツールに関する情報」では、ウェブサイト上で共同研究者を見つけるといった、研究の可能性が広がることを支援するための情報が提供されていた。教員と大学院生に向けて提供している研究のネットワーク

ツールや、学内他部署が提供する専門能力開発プログラムやワークショップの情報等を、ウェブサイトをクリックする形で掲載していた。「大学院生のためのインターンシッププログラムに関する情報」を掲載しているところでは、図書館が所蔵する歴史研究に用いられる一次史料の利用方法や取り扱い方を図書館員が指導するプログラムや、図書館情報学を学ぶ修士課程学生のための実地研修に関する情報等が見られた。

2. 論文執筆支援

論文執筆支援には、論文の書き方や執筆に関する情報が掲載されていた。提供率が高かったのは「文献管理ツールの紹介」で、56館（81.2%）であった。

「文献管理ツールの紹介」では、引用文献を管理するためのソフトの紹介や使い方についての説明が掲載されていた。「引用スタイルの紹介」では、APA、MLA、シカゴスタイルといった、学問分野によって異なるさまざまな引用スタイルを紹介していた。引用スタイルに関して、執筆に役立つガイドを図書館員が作成し、提供しているところも見られた。

論文の書き方に関しては、「ライティングセンターに関する情報」が掲載されていた。図書館とは別の部署にライティングセンターを設けているところも多く、ライティングセンターが主催する、大学院生のための論文執筆プログラム等の情報をリンクしていた。「論文の書き方に関する情報」には、執筆の手順の説明、ヒントを得られるような書籍やツールの紹介、図書館主催の書き方の指導に関する情報等が見られた。書き方の指導では、図書館独自のサービスだけでなく、ライティングセンターや他部署と協働で開催するプログラムやサマーキャンプの情報も掲載されていた。ほかに、学外の機関が提供する情報のリンクも見られた。パデュー大学（Purdue University）のライティング・ラボ（Purdue Writing Lab）が提供する、オンライン・ライティング・ラボ（Purdue Online Writing Lab: OWL）には、引用スタイルに関する説明等、論文執筆に関する情報が詳細に掲載さ

れている⁶⁸⁾。この情報をリンクしている大学が、パデュー大学以外にも見られた。

「インパクトファクター・引用分析に関する情報」については、自身の研究に引用するか否かの判断や、論文の投稿先を選択する際に利用することができる、Journal Citation Reports (JCR) を紹介する図書館が多く見られた⁶⁹⁾。「剽窃・盗作回避方法に関する情報」には、剽窃や盗作を行うことが重大な問題であることの説明と、その回避方法について、図書館員が作成したガイドやツール、チュートリアル等が掲載されていた。TAやインストラクターといった指導者のためのガイドや、図書館外の機関が提供しているサービスをリンクしているところも見られた。

「論文執筆計画のための行程計算表」は、ミネソタ大学の図書館やライティングセンター、その他複数の部署が協働で作成したDissertation Calculator⁷⁰⁾である。ウェブサイト上で博士論文執筆開始日と終了日を入れると、その期間を18段階に分けた論文執筆計画が表示されるもので、ミネソタ大学以外でもリンクしているところが見られた。

3. 研究成果公開支援

研究成果公開支援には、論文を完成させた後の公開に関する情報や、権利に関する情報が掲載されていた。提供率が高かったのは「著作権・フェアユースに関する情報」で、40館（58.0%）であった。

権利に関する情報については、著作権や学術出版に関する情報が多く、「著作権・フェアユースに関する情報」、「オープンアクセス（Open Access: OA）や学術出版に関する情報」、「著者の権利に関する情報」が見られた。論文を公開する際に、論文の著者として関わるさまざまな権利について、学内他部署や学外の機関が提供する情報を含め、研究者自身が選択し管理していくための有用な情報が掲載されていた。コロラド大学（University of Colorado）の図書館では、教員や大学院生のためのOA出版に関するオンラインチュートリアルを提供している。Publish Not Perishと題された

チュートリアルは、出版に関する情報はどの研究分野にも関わりがあり、教員のニーズとも共通性があることから、図書館と教員の協働によって作成されたもので、図書館以外の場所からも出版に関する指導を受けられるようになっている⁶¹⁾⁷¹⁾。

公開方法については、学位論文の提出に関して、「電子学位論文 (Electronic Theses and Dissertations: ETD) の提出方法に関する情報」が見られた。学位論文を機関リポジトリで管理、公開している大学では、電子媒体で提出することを義務付けており、図書館ではなく大学院が管理しているところも多い。そのため、大学院のウェブサイトをクリックして、提出方法や注意事項等の情報を提供していた。論文の雑誌掲載に関しては、「APC 支払いのための資金提供等に関する情報」が見られた。近年、論文を OA ジャーナルに公開する際、出版社に支払う高額な論文処理費用 (Article Processing Charge: APC) が著者の負担となっているため、資金提供に関する情報等を提供していた。大学で APC 支払いのための基金を設置しているところもあった。「プレゼンテーションに関する情報」では、学会発表やポスターセッションを行う際に役立つ情報や、プレゼンテーションスキルの向上を支援する図書館主催のワークショップに関する情報を提供していた。

4. まとめ

研究活動の支援に関するサービスには、大学院生や若手研究者を対象にした、研究活動に必要な情報リテラシーを得るための情報が掲載されていた。研究準備から文献やデータの管理、論文執筆を経て、論文完成後の成果公開に至る一連の流れに沿って、図書館独自のサービスだけでなく、図書館外の情報も提供されていた。大学院生が研究活動を行っていくうえで、さまざまな事柄に対処できるように、有用な情報を幅広く提供している傾向が見られた。

C. 教えることに対する支援

教えることに対する支援に関するサービスは、教員も含め、大学院生が TA やリサーチアシスタント (Research Assistant: RA)、インストラクター等指導者として活動するための支援や情報の提供である。60 館 (87.0%) が関連する何らかのサービスを掲載していた。結果を第 4 表に示す。

1. 図書館員による指導支援

図書館員による指導支援には、指導者としての大学院生や教員に対して、図書館員自身が対応するサービスが見られた。提供率が高かったのは「教員、TA に対する図書館利用指導に関する支援」で、42 館 (60.9%) であった。

第 4 表「教えることに対する支援」に関するサービス

| | | (N = 69) | |
|--------------|---------------------------|----------|-------|
| 具体的領域 | 提供しているサービス | 館数 | 比率* |
| 図書館員による指導支援 | 教員、TA に対する図書館利用指導に関する支援 | 42 | 60.9% |
| | 教員、TA、インストラクターに対する授業支援 | 35 | 50.7% |
| | デジタル資料や機材に関する技術支援 | 22 | 31.9% |
| | 授業支援システムの利用方法に関する情報 | 9 | 13.0% |
| | 大学院生に対する指導に関する情報 | 2 | 2.9% |
| 指導に役立つ情報等の提供 | 教員・インストラクターのためのコースリザーブガイド | 46 | 66.7% |
| | 教員・TA のための情報リテラシーガイド | 32 | 46.4% |
| | 教員・TA のための著作権等に関する情報 | 25 | 36.2% |
| | 図書館資料貸出手続きの代理権限の付与 | 20 | 29.0% |
| | 教育支援システムの利用方法 | 5 | 7.2% |
| | 授業で利用できるメディア資料の貸出 | 4 | 5.8% |
| | オープンテキストの紹介 | 3 | 4.3% |

* 比率はそれぞれの館数を調査対象館数 (69 館) で割った数

授業に関する支援について、「教員、TA に対する図書館利用指導に関する支援」は、教員やTAが授業の一環として図書館利用指導を計画したときに、図書館員に授業を依頼して直接担当してもらったり、授業担当者が図書館員から授業方法について指導を受けたりすることができるサービスで、その利用案内が掲載されていた。館によって申込フォームを掲載しているところも見られた。「教員、TA、インストラクターに対する授業支援」では、教員やTAが自身の担当する授業の中で図書館資料を利用するといった際に、図書館に関連する事項について、図書館員に相談することができるサービスを提供しており、その利用案内が掲載されていた。学内の指導支援を専門に行う部署が提供しているサービスを紹介しているところも見られた。「大学院生に対する指導に関する情報」では、大学院生がTAやRAとして指導を行う際に役立つ、データベースの検索方法の指導やデジタルプロジェクトに関する研修を、図書館員が行っていることを紹介していた。図書館員と教員が協働して研修を行っているところも見られた。

技術的な支援について、「デジタル資料や機材に関する技術支援」では、デジタル資料を利用して授業教材を作成したり、授業でデジタル機材等を利用したりする際に、専門の図書館員から技術的な支援を受けることができるサービスで、その利用案内が掲載されていた。学内の技術支援を専門に行う部署が提供するサービスを紹介しているところも見られた。「授業支援システムの利用方法に関する情報」では、授業支援システムに関して、授業に利用できる情報の提供とともに、図書館員による利用方法の指導が行われており、その情報が掲載されていた。

2. 指導に役立つ情報等の提供

指導に役立つ情報等の提供には、大学院生が指導を行う際に有用なさまざまな情報が掲載されていた。提供率が高かったのは「教員・インストラクターのためのコースリザーブガイド」で、46館(66.7%)であった。

「教員・インストラクターのためのコースリザーブガイド」では、教員を対象とした利用案内を掲載していた。授業に関する情報の公開方法や、授業で用いるテキストをリザーブブックとして置くための利用方法等を紹介しており、A節1項の学生用のコースリザーブガイドと区別していた。「教員・TAのための情報リテラシーガイド」は、教員やTAが、学生のリサーチスキル習得のための指導を行う際に、セルフトレーニングに活用できるガイドで、その利用案内が掲載されていた。ワシントン大学図書館では、指導に役立つチュートリアルやワークショップのリクエストフォーム等をまとめて、Instructor Toolkitとして掲載している⁷²⁾。「教員・TAのための著作権等に関する情報」には、著作権に関して、授業でテキスト等を取り扱う際に指導者として注意すべき点などをまとめたガイドやチュートリアルが掲載されていた。

「図書館資料貸出手続きの代理権限の付与」は、教員から代理人権限を受けた者が、教員に代わって図書館資料の貸出手続きを行うことができるサービスで、その利用案内が掲載されていた。大学院生が教員から代理権限を与えられ、教員の指示により授業で使用する資料を準備するといった可能性があると考えられる。

3. まとめ

教えることに対する支援に関するサービスでは、大学院生が教育活動を行う中で、授業での図書館資源や情報機器の活用に関わる部分を支援するための情報が掲載されていた。大学院生を将来の教員として意識し、教員と共通のものも含め、教えることに関連するサービスや情報を提供している傾向が見られた。図書館員による指導支援等、図書館独自のサービスが多い中、技術的な支援については、専門の図書館員や、学内の専門の部署が対応するといった連携が行われているところもあった。

D. その他の情報の提供

大学院生のためのサービスとして提供している

第5表「その他の情報の提供」に関するサービス

(N = 69)

| 具体的領域 | 提供しているサービス | 館数 | 比率* |
|-------------------|------------------------|----|-------|
| 特定の学生に対する図書館情報の提供 | 障害を持つ学生のための情報 | 19 | 27.5% |
| | 遠隔教育学生のための情報 | 12 | 17.4% |
| | 留学生のための情報 | 4 | 5.8% |
| | 留学先で利用可能な図書館サービスの情報 | 1 | 1.4% |
| 学生生活支援情報の提供 | 就職支援に関する情報 | 9 | 13.0% |
| | 奨学金や財政援助に関する情報 | 4 | 5.8% |
| | 大学院ウェブサイトの紹介 | 6 | 8.7% |
| | 大学や地域のサービス情報 | 5 | 7.2% |
| | 大学院生会ウェブサイトの紹介 | 2 | 2.9% |
| | 研究や学生生活に役立つブログの紹介 | 2 | 2.9% |
| | LGBT 学生のための情報 | 2 | 2.9% |
| | 子供を持つ学生のための情報 | 1 | 1.4% |
| 図書館に関するその他の情報の提供 | 図書館評価送信フォーム | 9 | 13.0% |
| | 図書館利用規則、蔵書管理方針、寄付依頼の提示 | 4 | 5.8% |
| | 図書館主催のイベントや展示の紹介 | 3 | 4.3% |
| | 図書館学生諮問委員会の情報 | 2 | 2.9% |
| | エッセイや論文のコンクールの開催案内 | 2 | 2.9% |
| | 学生に対する図書館業務のパートタイム雇用情報 | 2 | 2.9% |
| | 学術書以外の書籍等の利用案内 | 2 | 2.9% |

* 比率はそれぞれの館数を調査対象館数（69 館）で割った数

ものの中に、A 節から C 節のどの支援にも当てはまらない情報が見られた。その他の情報の提供にまとめたサービスは、大学院生が学生生活を送るうえで有用な情報であり、それらを提供している図書館が 43 館（62.3%）あった。結果を第 5 表に示す。

1. 特定の学生に対する図書館情報の提供

特定の学生に対する図書館情報の提供には、障害を持つ学生、遠隔教育学生、留学生といった、多様な属性に対応するための情報が見られた。「障害を持つ学生のための情報」には、さまざまな利用者に対応した図書館内の設備の紹介や、図書館員が代行して資料の取り出しや配送を行うサービスの説明等が掲載されていた。学内の他部署が提供する情報をリンクし、障害を持つ学生のために大学が行っているサービスの中に、図書館の支援も含まれていることを示しているところも見られた。

「遠隔教育学生のための情報」では、インターネットを通じて学外から利用できる図書館サービ

スの情報が提供されていた。「留学生のための情報」では、学外からの留学生に対して、多言語に対応した図書館利用指導などのサービスを紹介する情報が見られた。学内の学生が海外に留学した際に、留学先から利用できる図書館サービスの情報を掲載しているところもあった。

2. 学生生活支援情報の提供

学生生活支援情報の提供は、大学院生の学生生活に必要な情報の中で、図書館資源の利用等につながる情報が見られた。図書館のウェブサイトを通じて得られるように、学内他部署が提供するサービスのページをリンクする形で掲載しており、大学院生を対象とした情報も見られた。

「就職支援に関する情報」については、学内の就職支援を担当する部署のウェブサイトをリンクし、大学院生が研究者以外の職業を見つけるための情報として提供していた。就職支援担当部署以外の情報も見られ、ミシガン州立大学（Michigan State University）図書館では、就職活動に役立つ図書館所蔵の資料の紹介や、採用情報検索サイ

ト等の情報を掲載していた⁷³⁾。バドュー大学では、オンライン・ライティング・ラボ (OWL) の情報のうち、求人先に送付する履歴書や手紙の書き方の指導サービスのページをリンクしていた⁶⁸⁾。

「奨学金や財政援助に関する情報」では、学生生活を継続していくために必要な情報として、学内外の奨学金に関する情報を紹介しており、各ウェブサイトのリンク先を掲載していた。ほかに、「大学院ウェブサイトの紹介」、「大学や地域のサービス情報」、「大学院生会 (Graduate Student Association/Organization) ウェブサイトの紹介」等の情報のリンクが見られた。掲載館数は少ないが、「LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) 学生のための情報」や、「子供を持つ学生のための情報」について、学内他部署の提供する情報をリンクする形で掲載しているところも見られた。

3. 図書館に関するその他の情報の提供

図書館に関するその他の情報の提供には、すべての図書館利用者を対象とした、図書館をより便利に活用するための情報についての項目が見られた。図書館評価に関しては、「図書館評価送信フォーム」の掲載が見られた。図書館が提供しているサービスについて、インターネットを通じて利用者の意見を聞くことができるようになってきている。大学院生の意見を直接聞くために、諮問委員会を設置しているところもあり、「図書館学生諮問委員会の情報」が掲載されていた。デューク大学 (Duke University) 図書館では、諮問委員会を定期的に開催し、大学院生から関心のあるサービス等について意見を聞く機会を設け、サービスの改善に努めている⁷⁴⁾。

図書館からのお知らせとして、「エッセイや論文のコンクールの開催案内」に、大学院生が学生として応募することを目的としているものや、大学院生や教員が指導者として、学部生に対して図書館資料を利用して論文を作成することを促すための情報が見られた。ほかに、「図書館利用規則等の提示」、「図書館主催のイベントや展示の紹介」、「学生に対する図書館業務のパートタイム雇用情報」、といった情報が掲載されていた。

4. まとめ

その他の情報の提供に関するサービスには、大学院生にとって有用な情報を入手する可能性を広げるために、図書館の利用につながるさまざまな情報が掲載されていた。すべての利用者を対象とした情報が多い中、大学院生を対象とした情報や、特定の学生に向けた情報を提供しているところもあり、大学院生の多様な属性に対応する傾向が見られた。また、図書館評価から大学院生のニーズを探り、サービス改善に役立てようとする図書館の姿勢がうかがえた。

VI. 大学院教育における図書館の役割

A. 調査結果のまとめ

大学院生のためのページを持つ研究大学の図書館が、ウェブサイトに掲載しているサービスについて、第 IV 章および第 V 章に現状を示した。対象館を、研究大学の図書館 99 館のうち、ウェブサイトに大学院生のためのページを作成している 69 館に限定しているものの、ウェブサイトの調査によって、ARL の調査報告で見られた先進的なサービス以外にもさまざまなサービスが提供されていることが明らかになった。この調査から、積極性を持ってサービスを提供している図書館における、大学院生のためのサービスの傾向やサービス項目の多様さを、ある程度まとめた結果として示すことができたと考える。

第 IV 章の結果から、サービスの構成については、調査対象の 69 館のうち 60 館が、サービスを大別し、それぞれに見出しをつけ、大学院生のためのページを階層化して表示していた。見出しには、大学院生の活動領域をもとに、それぞれのサービスや情報の具体的な内容が表示されていた。階層化することによって、図書館を利用する大学院生の視点からサービスを組み立てていることがわかる。

第 V 章の結果から、内容について、「図書館資源の提供」、「研究活動の支援」、「教えることに対する支援」、「その他の情報の提供」の 4 つに整理することで、学習する、研究する、教える、といった大学院生のさまざまな活動領域にサービスが及

んでいることが明らかになった。従来からの図書館の基本サービスといえる「図書館資源の提供」とともに、「研究活動の支援」に関する何らかのサービスをすべての図書館が提供しており、大学院生の専門的スキルや学位取得率の向上のために、研究活動に対する支援が重要であることが、広く認識されていることがわかる。この2つに比べて提供館数は少ないものの、「教えることに対する支援」や「その他の情報の提供」に関するサービスでは、教育活動の支援や、学生生活を支援するための情報等が見られ、大学院生の多様なニーズに対応する傾向が示されていた。

対象について、大学院生全般を対象としたサービスの多くは、修士課程学生と博士課程学生に共通のものであった。その中で、博士課程学生や博士候補生を対象にしたものも見られた。大学院生のみを対象としたものだけでなく、学部生や教員等、他の利用者とも共通するものの中で大学院生に関わる情報も提供されていた。教員と共通の情報については、「教えることに対する支援」に顕著に見られ、教育活動の支援に対処する傾向が明らかになった。

提供元については、図書館に限らず、図書館外が提供する情報も見られた。学内外との連携や教員との協働が行われているものは、学内他部署が提供する情報や、他大学や他の機関が提供するサービスのページをリンクして提供していた。特に「その他の情報の提供」に見られるように、ウェブサイト上での情報共有のしやすさを活かし、図書館の枠を超えて幅広い情報を提供する傾向がうかがえた。

B. Association of Research Libraries の報告との照合

先に確認したように、ARLの2012年のレポート²³⁾では、大学院教育の課題に対して、今後行っていくべき先進的なサービスの事例等を4つの領域から報告し、改革の指針を示していた。1つ目は、大学院生の多様なニーズへの対応、2つ目は、研究に集中できるスペースのニーズへの対応、3つ目は、図書館では担いきれないサービスへの

対応、4つ目は、大学院生の専門性に特化したニーズへの対応である。4つ目について、ARLの報告では、図書館の組織改編や図書館員自身の専門能力の向上といった取り組みについて示されていたが、大学院生のためのサービスのページからは、サービスの提供に至るまでの図書館内での動向や具体的な取り組みについて、確認することができなかった。よって、他の3つについて実際にどのように対応しているのかを、今回の調査結果からそれぞれ検討する。

1つ目の、大学院生の多様なニーズへの対応については、大学院生の活動領域に即して「図書館資源の提供」、「研究活動の支援」、「教えることに対する支援」にサービスや情報をまとめることで、目的ごとに情報を速やかに入手できるように提供していた。学習、指導、研究、分析、執筆といった、大学院生の学生としてのライフサイクルに対応したサービスの提供は、第I章A節で述べた博士課程教育における学位取得の長期化や中途退学者の増加の問題への対処にもつながっていると考えられる。「その他の情報の提供」には、就職支援に関する情報が見られた。図書館のウェブサイトを通じて、学内他部署の情報等を提供することによって、大学教員以外の雇用に関する情報不足の問題に対処していることがうかがえる。属性の多様化については、「その他の情報の提供」に、障害をもつ学生や働きながら学ぶ学生、留学生、LGBT学生、子供を持つ学生等のための情報を提供するという対応が見られた。図書館サービスに直接関わらない情報も含め、さまざまな属性に応じた学業継続に有用な情報の提供が、中途退学者の減少にもつながっていくと考えられる。

2つ目の、研究に集中できるスペースのニーズへの対応については、図書館内に大学院生専用のさまざまなスペースを提供することで、図書館内の環境を整備していることが確認できた。複数のサービスを組み合わせることによって、ワンストップでサービスを提供するリサーチコモンズのほかにも、博士候補生が利用できる学位論文執筆のためのスペース等が見られ、大学院生が図書館内で長時間滞在して研究活動を行うことができる

場を提供していた。このような対応は、博士課程教育における学位取得率の向上に貢献すると考えられる。大学院生と教員の交流を目的としたスペース等の提供からは、将来の教員としての大学院生にとって、博士号取得後のさまざまな問題への対処につながる可能性が見られた。

3つ目の、図書館では担いきれないサービスへの対応については、学内他部署との連携や協働によって対応していることが確認できた。特に大学院生の求める高度な技術的支援について、専門の図書館員や学内の専門の部署が担当したり、学内他部署と協働でプログラム等を提供したり、他部署の情報をリンクしたりするなど、さまざまな連携が見られた。教員との協働については、「研究活動の支援」にOA出版に関するオンラインチュートリアル作成、「教えることに対する支援」に大学院生に対する指導や研修等の提供が見られた。大学院生の専門性の高い多様なニーズに対応するために、連携や協働によって厚みのあるサービスを提供することが、博士課程プログラムにおける教育活動の準備不足等の問題への対処にもつながっていることがうかがえる。

調査結果との照合によって、調査対象館ではARLの報告で示された指針に沿って、先進的なサービスを実現させる方向で対処していることを確認することができた。この結果から、博士課程教育に関わる問題点への対処に、図書館サービスが貢献していることがうかがえた。研究大学図書館の7割の現状ではあるが、博士課程学生に重点を置き、大学院教育の課題に沿ってサービスを構築する研究大学図書館の姿勢が表れていると考えられる。

C. 今後の課題

今回の調査によって、大学院生のためのページを持つ研究大学の図書館における、サービスの傾向やその多様さを示すことができた。しかし、ウェブサイトに大学院生のためのページが見られなかったため対象外とした図書館の中には、大学院生に対して積極的なサービスを行っていない、あるいは大学院生や教員といった研究者を主な対

象としてサービスを提供しているために、大学院生のページを設けていないところもあることが考えられる。調査対象館の中でも、実際には提供しているが、大学院生のページに掲載していない、もしくは図書館ウェブサイト内のどこにも掲載していないサービスが存在することもありうる。よって、研究大学図書館全体の傾向を示すためには、今回対象外とした図書館を個別に調査する必要がある。調査対象館においても、大学院生のためのページには記載されていないサービスの提供の有無や、他の利用者向けのサービスとの共用部分の有無については、学部生や教員といった利用者のためのサービスとの比較調査が求められる。サービスの提供に至るまでの図書館内での動向や具体的な取り組みについても、実際にどのようなことが行われているのか、個別の調査が必要である。

今回の調査結果をもとに、確認できなかった事項を明らかにしたうえで、実際にサービスがどのように利用され、大学院生の活動にどのような効果が表れているのかを調査することによって、図書館サービスの新たな領域が広がっていくと考えられる。情報の提供方法が多様化していく中、大学院生の幅広いニーズに応え、大学院生とさまざまな情報をつなぐために、図書館は大学院教育のパートナーとしての役割について、さらに考えていく必要があるだろう。

謝 辞

本論文は、慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻情報資源管理分野に提出した修士論文をもとにしています。執筆にあたってご指導いただいた慶應義塾大学名誉教授の田村俊作先生、多くの貴重なご意見をいただいた査読者や編集委員の皆様に、深く感謝申し上げます。

注・引用文献

- 1) 江原武一. 転換期日本の大学改革：アメリカとの比較. 東信堂, 2010, 306p.
- 2) 山田礼子. プロフェッショナルスクール：アメリカの専門職養成. 玉川大学出版部, 1998, 256p.
- 3) Wendler, Cathy et al. The Path Forward: The Future of Graduate Education in the United

- States. Educational Testing Service, 2010, 64p.
- 4) Allison, Herbert et al. Graduate Education: The Backbone of American Competitiveness and Innovation. Council of Graduate Schools, 2007, 30p.
 - 5) Nevill, Stephanie C.; Chen, Xianglei. The Path through Graduate School: A Longitudinal Examination 10 Years after Bachelor's Degree. National Center for Education Statistics, 2007, NCES 2007-162, 68p.
 - 6) 村山裕三, 地主敏樹編著. アメリカ経済論. ミネルヴァ書房, 2004, 325p. (現代世界経済叢書, 3).
 - 7) Clark, R. Barton 編著. 大学院教育の研究. 潮木守一監訳. 東信堂, 1999, 523p.
 - 8) Peters, L. Robert. アメリカ大学院留学: 学位取得への必携ガイドンス. 木村玉己訳. アルク, 1996, 326p.
 - 9) Nerad, Maresi. The PhD in the US: Criticisms, facts, and remedies. Higher Education Policy, 2004, vol. 17, no. 2, p. 183-199.
 - 10) Nerad, Maresi et al. Social Science PhDs, Five + Years Out: A National Survey of PhDs in Six Fields: Highlights Report. Center for Innovation and Research in Graduate Education, University of Washington, 2007, 34p.
 - 11) Golde, Chris M.; Dore, Timothy M. At Cross Purposes: What the Experiences of Today's Doctoral Students Reveal about Doctoral Education: A Survey Initiated by The Pew Charitable Trusts. 2001, 58p.
 - 12) Nerad, Maresi; Cerny, Joseph. Postdoctoral appointments and employment patterns of science and engineering doctoral recipients ten-plus years after Ph.D. completion: Selected results from the 'Ph.D.s, Ten Years Later' study. Communicator, 2002, vol. 35, no. 7, p. 1-2, 10-11.
 - 13) Nerad, Maresi; Cerny, Joseph. Postdoctoral patterns, career advancement, and problems. Science, 1999, vol. 285, p. 1533-1535.
 - 14) Hoffer, Thomas B. et al. Doctorate Recipients from United States Universities: Summary Report 2001. NORC at the University of Chicago, 2002, 135p.
 - 15) 阿曾沼明裕. アメリカ研究大学の大学院: 多様性の基盤を探る. 名古屋大学出版会, 2014, 487p.
 - 16) Marcus, Cecily; Covert-Vail, Lucinda; Mandel, Carol A. NYU 21st Century Library Project: Designing a Research Library of the Future for New York University: Report of a Study of Faculty and Graduate Student Needs for Research and Teaching, 2007, 57p.
 - 17) University of Minnesota Libraries. Understanding Research Behaviors, Information Resources, and Service Needs of Scientists and Graduate Students: A Study by the University of Minnesota Libraries. 2007, 38p.
 - 18) University of Washington Libraries. Library Directions: A Newsletter of the University of Washington Libraries. 2007, vol. 17, no. 2, 10p.
 - 19) Goldenberg-Hart, Diane. Enhancing graduate education: A fresh look at library engagement. ARL: A Bimonthly Report on Research Library Issues and Actions from ARL, CNI, and SPARC. 2008, no. 256, p. 1-8.
 - 20) Ortega, Suzanne; Lynch, Carol. "The changing nature of graduate education: Inputs and outcomes". ARL/CNI Forum on Enhancing Graduate Education. Washington, DC, 2007-10-12, Association for Research Libraries, 2007. <http://www.arl.org/storage/documents/publications/ff07-ortega-lynch.pdf>, (accessed 2015-01-28).
 - 21) Lewis, Vivian; Moulder, Cathy. Graduate Student and Faculty Spaces and Services: SPEC Kit 308. Association of Research Libraries, 2008, 170p.
 - 22) Lowry, Charles B.; Adler, Prudence; Hahn, Karla; Stuart, Crit. Transformational Times: An Environmental Scan Prepared for the ARL Strategic Plan Review Task Force. Association of Research Libraries, 2009, 24p.
 - 23) Covert-Vail, Lucinda; Collard, Scott. New Roles for New Times: Research Library Services for Graduate Students. Association of Research Libraries, 2012, 23p.
 - 24) Rempel, Hannah Gascho. Services for graduate students: A review of academic library web sites. Journal of Web Librarianship, 2010, vol. 4, no. 1, p. 19-35.
 - 25) Blummer, Barbara. Providing library instruction to graduate students: A review of the literature. Public Services Quarterly, 2009, vol. 5, no. 1, p. 15-39.
 - 26) Griffin, Lloyd W.; Clarke, Jack A. Orientation and instruction of the graduate student by university libraries: A survey. College & Research Libraries, 1958, vol. 19, no. 6, p. 451-454.
 - 27) Dunlap, Connie R. Library services to the graduate community: The University of Michigan. College & Research Libraries, 1976, vol. 37, no. 3, p. 247-251.
 - 28) Rogers, Rutherford D.; Weber, David C. University Library Administration. H.W. Wilson, 1971, 454p.
 - 29) Cowley, John ed. Libraries in Higher Education: The User Approach to Service. Linnet Books,

- 1975, 163p.
- 30) Griffin, Lloyd W.; Clarke, Jack A. Orientation and instruction of graduate students in the use of the university library: A survey. *College & Research Libraries*. 1972, vol. 33, no. 6, p. 467-472.
 - 31) Michalak, Thomas J. Library services to the graduate community: The role of the subject specialist librarian. *College & Research Libraries*. 1976, vol. 37, no. 3, p. 257-265.
 - 32) Madland, Denise. Library instruction for graduate students. *College Teaching*. 1985, vol. 33, no. 4, p. 163-164.
 - 33) Pickett, S. M.; Chwalek, A. B. Integrating bibliographic research skills into a graduate program in education. *Catholic Library World*. 1984, vol. 55, no. 9, p. 392-394.
 - 34) Kazlauskas, Diane W. Bibliographic Instruction at the Graduate Level: A Study of Methods. 1987, ERIC ED311932, 13p.
 - 35) American Library Association. Presidential Committee on Information Literacy: Final Report. 1989. http://www.ala.org/acrl/publications/white_papers/presidential, (accessed 2016-12-11).
 - 36) 田村俊作編著. 情報サービス論. 新訂, 東京書籍, 2010, 214p. (新現代図書館学講座, 5).
 - 37) Hoover, Danise G.; Clayton, Victoria. Graduate bibliographic instruction in ERIC on CD-ROM. *Behavioral & Social Sciences Librarian*. 1989, vol. 8, no. 1/2, p. 1-12.
 - 38) Gratch, Bonnie G.; York, Charlene C. Personalized research consultation service for graduate students: Building a program based on research findings. *Research Strategies*. 1991, vol. 9, no. 1, p. 4-15.
 - 39) Fleming-May, Rachel; Yuro, Lisa. From student to scholar: The academic library and social sciences PhD students' transformation. *Portal: Libraries and the Academy*. 2009, vol. 9, no. 2, p. 199-221.
 - 40) Jankowska, Maria Anna; Hertel, Karen; Young, Nancy J. Improving library service quality to graduate students: LibQual+ [TM] survey results in a practical setting. *Portal: Libraries and the Academy*. 2006, vol. 6, no. 1, p. 59-77.
 - 41) Kayongo, Jessica; Helm, Clarence. Graduate students and the library: A survey of research practices and library use at the University of Notre Dame. *Reference & User Services Quarterly*. 2010, vol. 49, no. 4, p. 341-349.
 - 42) George, Carole A. et al. Scholarly use of information: Graduate students' information seeking behaviour. *Information Research*. 2006, vol. 11, no. 4, paper 272. <http://InformationR.net/ir/11-4/paper272.html>, (accessed 2016-12-11).
 - 43) Barton, Hope et al. Identifying the resource and service needs of graduate and professional students: The University of Iowa user needs of graduate professional series. *Portal: Libraries and the Academy*. 2002, vol. 2, no. 1, p. 125-143.
 - 44) Roszkowski, Beth; Reynolds, Gretchen. Assessing, analyzing, and adapting: Improving a graduate student instruction program through needs assessment. *Behavioral & Social Sciences Librarian*. 2013, vol. 32, no. 4, p. 224-239.
 - 45) Rempel, Hannah Gascho. A longitudinal assessment of graduate student research behavior and the impact of attending a library literature review workshop. *College & Research Libraries*. 2010, vol. 71, no. 6, p. 532-547.
 - 46) Stein, Joan et al. In their own words: A preliminary report on the value of the internet and the library in graduate student research. *Performance Measurement and Metrics*. 2006, vol. 7, no. 2, p. 107-115.
 - 47) Gardner, Susan K. Student and faculty attributions of attrition in high and low-completing doctoral programs in the United States. *Higher Education*. 2009, vol. 58, no. 1, p. 97-112.
 - 48) Davidson, J.R. Faculty and student attitudes toward credit courses for library skills. *College & Research Libraries*. 2001, vol. 62, no. 2, p. 155-163.
 - 49) Lightman, Harriet; Reingold, Ruth N. A collaborative model for teaching e-resources: Northwestern University's graduate training day. *Portal: Libraries and the Academy*. 2005, vol. 5, no. 1, p. 23-32.
 - 50) Lampert, Lynn. "Getting psyched" about information literacy: A successful faculty-librarian collaboration for educational psychology and counseling. *Reference Librarian*. 2005, vol. 43, no. 89/90, p. 5-23.
 - 51) Jacobs, Susan Kaplan; Rosenfeld, Peri; Haber, Judith. Information literacy as the foundation for evidence-based practice in graduate nursing education: A curriculum-integrated approach. *Journal of Professional Nursing*. 2003, vol. 19, no. 5, p. 320-328.
 - 52) Pival, Paul R.; Tuñón, Johanna. Innovative methods for providing instruction to distance students using technology. *Journal of Library Administration*. 2001, vol. 32, no. 1/2, p. 347-360.
 - 53) Tuñón, Johanna; Ramirez, Laura. ABD or EdD? A model of library training for distance doctoral

- students. *Journal of Library Administration*. 2010, vol. 50, no. 7/8, p. 989-996.
- 54) Stuart, Crit. Learning and research spaces in ARL libraries: Snapshots of installations and experiments. *ARL: A Bimonthly Report from ARL, CNI, and SPARC*. 2009, no. 264, p. 7-18.
- 55) Detlor, Brian; Lewis, Vivian. Academic library web sites: Current practice and future directions. *Journal of Academic Librarianship*. 2006, vol. 32, no. 3, p. 251-258.
- 56) Liu, Shu. Engaging users: The future of academic library web sites. *College & Research Libraries*. 2008, vol. 69, no. 1, p. 6-27.
- 57) "About". Association of Research Libraries. <http://www.arl.org/about>, (accessed 2016-12-11).
- 58) "研究図書館協会". 図書館情報学用語辞典, 第4版, 丸善, 2013, p. 61.
- 59) "研究図書館が置かれている環境の分析 (抜粋)". 第34回研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会配布資料: 資料1-2 参考データ. 文部科学省, 2010, p. 21-23. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/002-1/siryu/_jcsFiles/afieldfile/2010/10/15/1298045_1_1.pdf, (入手 2016-12-11).
- 60) 池内有為. 多様化する大学院生のための新たな研究図書館サービス. *カレントアウェアネス-E*. 2013, no. 234. <http://current.ndl.go.jp/e1412>, (入手 2016-12-11).
- 61) Knieval, Jennifer E. Instruction to faculty and graduate students: A tutorial to teach publication strategies. *Portal: Libraries and the Academy*. 2008, vol. 8, no. 2, p. 175-186.
- 62) ARL 加盟館数は本調査時点に基づく. "Membership". Association of Research Libraries. <http://www.arl.org/membership>, (accessed 2015-01-28).
- 63) "Classification description". Carnegie Classification of Institutions of Higher Education. <http://carnegieclassifications.iu.edu/descriptions/basic.php>, (accessed 2015-01-28).
- 64) "Graduate student services: Spaces". New York University Libraries. <http://guides.nyu.edu/gradspaces>, (accessed 2016-12-11).
- 65) "Research commons". University Libraries: University of Washington. <http://www.lib.washington.edu/commons>, (accessed 2016-12-11).
- 66) "ResearchWorks Service". University Libraries: University of Washington. <http://researchworks.lib.washington.edu/>, (accessed 2016-12-11).
- 67) "Graduate student services: 2) Choose by task or stage of research". New York University Libraries. <http://guides.nyu.edu/c.php?g=276579&p=1848257>, (accessed 2016-12-11).
- 68) Purdue Online Writing Lab: OWL. <https://owl.english.purdue.edu/owl/>, (accessed 2016-12-11).
- 69) Thomson Reuters. Journal Citation Reports. <http://thomsonreuters.com/en/products-services/scholarly-scientific-research/research-management-and-evaluation/journal-citation-reports.html>, (accessed 2015-01-28).
- 70) "Dissertation calculator". University of Minnesota Libraries. <https://www.lib.umn.edu/help/disscalc/>, (accessed 2016-12-11).
- 71) "Publish not perish: The art and craft of publishing in scholarly journals". University of Colorado. <http://www.publishnotperish.org/>, (accessed 2015-01-28).
- 72) "Instructor toolkit". University Libraries: University of Washington. <http://www.lib.washington.edu/teaching/toolkit>, (accessed 2016-12-11).
- 73) "Career resources". Michigan State University Libraries. <http://libguides.lib.msu.edu/careers>, (accessed 2016-12-11).
- 74) "Graduate & Professional Student Advisory Board". Duke University Libraries. <http://library.duke.edu/about/advisory-boards/graduate>, (accessed 2016-12-11).

要 旨

【目的】1990年代以降のアメリカの大学院教育の課題に対し、研究大学の図書館を中心に、大学院生に対するサービスについて課題の指摘や対策の提案が行われるようになった。本研究の目的は、アメリカの研究大学において大学院教育の課題に対処するために、大学院生に対してどのような図書館サービスが提供されているのかを調査し、現状を明らかにすることである。

【方法】研究図書館協会（Association of Research Libraries: ARL）に加盟しているアメリカの研究大学図書館99館のうち、ウェブサイト上に大学院生を対象としたサービスをまとめたページを作成している69館の情報に限定して、2014年8月から12月に調査を行った。各図書館のウェブサイトから、サービスの構成およびサービスに関する情報を抽出し、分析を行った。

【結果】大学院生のためのサービスを、図書館の基本サービスである「図書館資源の提供」、研究者の側面に関わる「研究活動の支援」、指導者の側面に関わる「教えることに対する支援」、その他学生生活に必要な情報をまとめた「その他の情報の提供」に整理することで、大学院生のさまざまな活動領域にサービスが及んでいることが明らかになった。図書館が独自に提供しているものだけでなく、学内他部署や学外の機関の情報も見られ、図書館だけでは担いきれない専門的なサービスを、図書館内外とのさまざまな連携によって提供していた。大学院生のためのページには、大学院生の図書館利用につながる有用な情報がまとめられており、大学院生の専門性の高い多様なニーズに対応していた。この結果から、研究大学の図書館は、大学院教育の課題に沿ってサービスを構築することによって、積極性を持って大学院生のためのサービスを提供する傾向にあることが明らかになった。

付録：調査対象館一覧

| 図書館名 ：英語表記 | 図書館名 ：日本語表記 | カーネギー分類 | URL | 参照 |
|---|---------------------------|---------|--|------------|
| University at Albany, SUNY, Libraries | ニューヨーク州立大学オー ルバニ校図書館 | RU/VH | http://libguides.library.albany.edu/ graduatestudents | 2014-08-18 |
| University of Arizona Libraries | アリゾナ大学図書館 | RU/VH | http://www.library.arizona.edu/ services/gradstudents | 2014-08-12 |
| Arizona State University Libraries | アリゾナ州立大学図書館 | RU/VH | https://lib.asu.edu/services/ graduate-students | 2014-08-21 |
| Boston College Libraries | ボストンカレッジ図書館 | RU/H | http://www.bc.edu/libraries/help/ graduates.html | 2014-08-25 |
| Brigham Young University Library | ブリガムヤング大学図書館 | RU/H | http://guides.lib.byu.edu/ graduatestudentservices | 2014-10-28 |
| Brown University Library | ブラウン大学図書館 | RU/VH | http://library.brown.edu/libweb/ forgs.php | 2014-10-27 |
| University of California, Berkeley, Library | カリフォルニア大学パーク レー校図書館 | RU/VH | http://www.lib.berkeley.edu/ information/graduate-students | 2014-10-24 |
| University of California, Davis, Library | カリフォルニア大学デービ ス校図書館 | RU/VH | http://guides.lib.ucdavis.edu/ facgrad | 2014-10-29 |
| University of California, Riverside, Libraries | カリフォルニア大学リバー サイド校図書館 | RU/VH | http://library.ucr.edu/view/for/ graduates.html | 2014-08-26 |
| University of California, Santa Barbara, Libraries | カリフォルニア大学サンタ バーバラ校図書館 | RU/VH | http://www.library.ucsb.edu/ services/graduate-students | 2014-08-27 |
| Case Western Reserve University Libraries | ケース・ウェスタン・リ ザーブ大学図書館 | RU/VH | http://researchguides.case.edu/ graduate | 2014-08-29 |
| University of Cincinnati Libraries | シンシナティ大学図書館 | RU/VH | http://guides.libraries.uc.edu/ gradstudents | 2014-10-29 |
| University of Colorado Boulder Libraries | コロラド大学ボルダー校図 書館 | RU/VH | http://uclibraries.colorado.edu/ services/forgraduatestudents.htm | 2014-08-29 |
| Columbia University Libraries | コロンビア大学図書館 | RU/VH | http://library.columbia.edu/ services/grad-students.html | 2014-08-16 |
| University of Connecticut Libraries | コネチカット大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.uconn.edu/ information/graduatestudent.html | 2014-08-30 |
| Cornell University Library | コーネル大学図書館 | RU/VH | https://www.library.cornell.edu/ graduate | 2014-09-02 |
| University of Delaware Library | デラウェア大学図書館 | RU/VH | http://www2.lib.udel.edu/ref/ gradstudents.htm | 2014-10-28 |
| Duke University Libraries | デューク大学図書館 | RU/VH | http://library.duke.edu/services/ graduate | 2014-09-13 |
| Florida State University Libraries | フロリダ州立大学図書館 | RU/VH | https://www.lib.fsu.edu/graduate- students | 2014-09-16 |
| Georgetown University Library | ジョージタウン大学図書館 | RU/VH | http://www.library.georgetown. edu/grad-students | 2014-09-19 |
| University of Georgia Libraries | ジョージア大学図書館 | RU/VH | http://www.libs.uga.edu/graduates/ index.html | 2014-09-29 |
| Georgia Institute of Technology Library | ジョージア工科大学図書館 | RU/VH | http://libguides.gatech.edu/grads | 2014-12-17 |
| University of Hawai'i at Mānoa Library | ハワイ大学マノア校図書館 | RU/VH | http://guides.library.manoa.hawaii. edu/grad | 2014-10-30 |
| University of Houston Libraries | ヒューストン大学図書館 | RU/VH | http://info.lib.uh.edu/services/ faculty-and-graduate-students | 2014-09-18 |
| Howard University Libraries | ハワード大学図書館 | RU/H | http://library.howard.edu/ primaryresources | 2014-12-20 |
| University of Illinois at Chicago Library | イリノイ大学シカゴ校図書 館 | RU/VH | http://researchguides.uic.edu/ gradtoolkit | 2014-12-16 |
| University of Illinois at Urbana-Champaign Library | イリノイ大学アーバナ・ シャンペーン校図書館 | RU/VH | http://www.library.illinois.edu/ learn/users/gradstudents.html | 2014-10-03 |
| Indiana University Libraries Bloomington | インディアナ大学ブルーミ ントン校図書館 | RU/VH | http://libraries.iub.edu/ | 2014-12-16 |

アメリカの研究大学における大学院生のための図書館サービスの現状：ウェブサイト調査をもとに

付録：調査対象館一覧（続き）

| 図書館名 ：英語表記 | 図書館名 ：日本語表記 | カーネギー分類 | URL | 参照 |
|---|--------------------|---------|---|------------|
| University of Iowa Libraries | アイオワ大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.uiowa.edu/services/graduate/ | 2014-12-20 |
| Iowa State University Library | アイオワ州立大学図書館 | RU/VH | http://instr.iastate.libguides.com/content.php?pid=276948 | 2014-12-16 |
| Johns Hopkins University Libraries | ジョンズ・ホプキンス大学図書館 | RU/VH | http://guides.library.jhu.edu/grads | 2014-10-30 |
| University of Kansas Libraries | カンザス大学図書館 | RU/VH | http://guides.lib.ku.edu/com_studies_graduate_students?hs=a | 2014-12-17 |
| University of Kentucky Libraries | ケンタッキー大学図書館 | RU/VH | http://libguides.uky.edu/gssk | 2014-10-04 |
| University of Louisville Libraries | ルイビル大学図書館 | RU/VH | http://louisville.libguides.com/litreview | 2014-12-17 |
| University of Maryland Libraries | メリーランド大学図書館 | RU/VH | http://lib.guides.umd.edu/faculty | 2014-10-07 |
| University of Miami Libraries | マイアミ大学図書館 | RU/VH | http://library.miami.edu/patron/graduate/ | 2014-10-08 |
| University of Michigan Library | ミシガン大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.umich.edu/services-graduate-students | 2014-10-08 |
| Michigan State University Libraries | ミシガン州立大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.msu.edu/graduate/ | 2014-12-20 |
| University of Minnesota Libraries | ミネソタ大学図書館 | RU/VH | https://www.lib.umn.edu/services/grads | 2014-10-09 |
| University of Missouri-Columbia Libraries | ミズーリ大学コロンビア校図書館 | RU/VH | http://libraryguides.missouri.edu/gradstudents | 2014-10-13 |
| University of New Mexico Libraries | ニューメキシコ大学図書館 | RU/VH | http://library.unm.edu/help/graduate.php | 2014-10-13 |
| New York University Libraries | ニューヨーク大学図書館 | RU/VH | http://nyu.libguides.com/grads | 2014-08-11 |
| North Carolina State University Libraries | ノースカロライナ州立大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.ncsu.edu/graduatestudents | 2014-10-13 |
| Northwestern University Library | ノースウェスタン大学図書館 | RU/VH | http://www.library.northwestern.edu/services/faculty-graduate-students | 2014-10-13 |
| University of Notre Dame, Hesburgh Libraries | ノートルダム大学ヘスバーク図書館 | RU/VH | http://library.nd.edu/help/grads.shtml | 2014-10-14 |
| University of Oklahoma Libraries | オクラホマ大学図書館 | RU/VH | http://libraries.ou.edu/services/?id=3 | 2014-10-14 |
| Oklahoma State University Library | オクラホマ州立大学図書館 | RU/H | http://info.library.okstate.edu/graduate_students | 2014-12-17 |
| University of Oregon Libraries | オレゴン大学図書館 | RU/VH | http://library.uoregon.edu/ | 2014-10-14 |
| Pennsylvania State University Libraries | ペンシルベニア州立大学図書館 | RU/VH | http://www.libraries.psu.edu/psul/infosvcs/grad.html | 2014-10-15 |
| University of Pittsburgh Libraries | ピッツバーグ大学図書館 | RU/VH | http://www.library.pitt.edu/graduate-students | 2014-10-15 |
| Purdue University Libraries | バドュー大学図書館 | RU/VH | http://guides.lib.purdue.edu/grip | 2014-12-16 |
| Rutgers University Libraries | ラトガース大学図書館 | RU/H | http://libguides.rutgers.edu/grads | 2014-12-20 |
| University of South Carolina Libraries | サウスカロライナ大学図書館 | RU/VH | http://guides.library.sc.edu/graduate | 2014-10-31 |
| University of Southern California Libraries | 南カリフォルニア大学図書館 | RU/VH | http://www.usc.edu/libraries/services/audience/grad.php | 2014-10-16 |
| Southern Illinois University Carbondale Library | 南イリノイ大学カーボンデール校図書館 | RU/H | http://libguides.lib.siu.edu/content.php?pid=63003 | 2014-12-17 |
| Syracuse University Library | シラキュース大学図書館 | RU/H | http://library.syr.edu/graduate/index.php | 2014-10-16 |
| Temple University Libraries | テンブル大学図書館 | RU/H | http://library.temple.edu/services/graduate | 2014-10-17 |

付録：調査対象館一覧（続き）

| 図書館名 ：英語表記 | 図書館名 ：日本語表記 | カーネギー分類 | URL | 参照 |
|--|------------------------|---------|--|------------|
| University of Tennessee, Knoxville, Libraries | テネシー大学ノックスビル 校図書館 | RU/VH | http://www.lib.utk.edu/info/grad/ | 2014-10-17 |
| University of Texas Libraries | テキサス大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.utexas.edu/ gradstudents/ | 2014-10-19 |
| Texas A&M University Libraries | テキサス A&M 大学図書館 | RU/VH | http://guides.library.tamu.edu/ GraduateStudentResources | 2014-10-20 |
| Tulane University Library | チューレーン大学図書館 | RU/VH | http://library.tulane.edu/graduate- students | 2014-12-03 |
| University of Utah Library | ユタ大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.utah.edu/services/ education/gradstudents.php | 2014-10-23 |
| University of Virginia Library | バージニア大学図書館 | RU/VH | http://www.library.virginia.edu/ services/graduate-students/ | 2014-10-23 |
| Virginia Tech Libraries | バージニア工科大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.vt.edu/info/grad. html | 2014-10-23 |
| University of Washington Libraries | ワシントン大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.washington.edu/ services/graduate | 2014-08-08 |
| Washington State University Libraries | ワシントン州立大学図書館 | RU/VH | http://libguides.wsulibs.wsu.edu/ content.php?pid=111722 | 2014-11-01 |
| Washington University in St. Louis Libraries | ワシントン大学セントルイス 校図書館 | RU/VH | http://library.wustl.edu/services/ gradstudent.html | 2014-10-23 |
| Wayne State University Libraries | ウェイン州立大学図書館 | RU/VH | http://www.lib.wayne.edu/services/ research/ | 2014-10-28 |
| University of Wisconsin-Madison Libraries | ウィスコンシン大学マディ ソン校図書館 | RU/VH | http://researchguides.library.wisc. edu/educationresearch | 2014-12-17 |